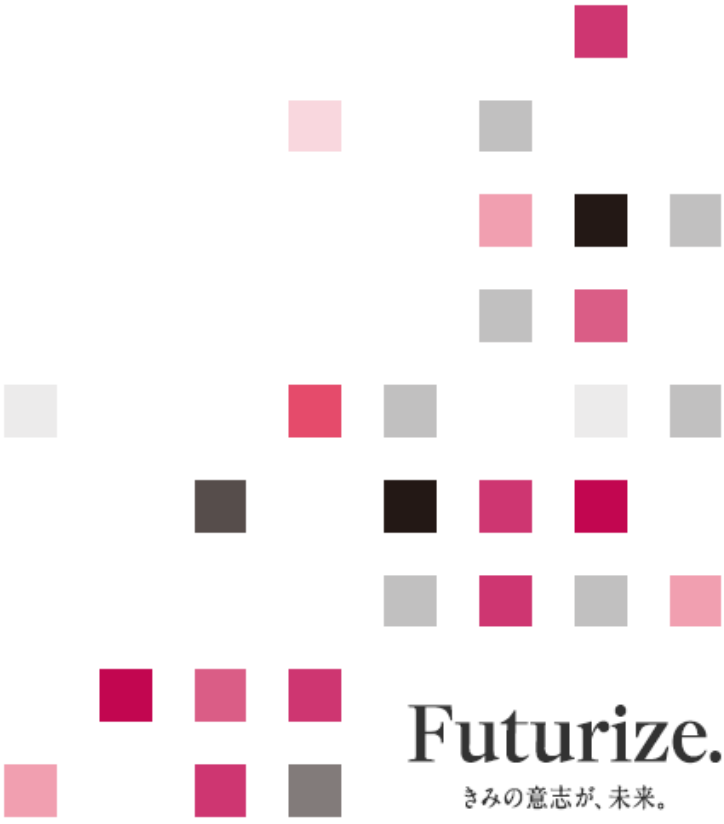
RITSUMEIKAN UNIVERSITY

# ANNUAL REPORT 2023



Futurize.
きみの意志が、未来。

# Ⅰ．目次

Ⅰ．目次
Ⅱ．室長挨拶
Ⅲ．大学院キャリアパス推進室の体制
Ⅳ．本学大学院の状況
1．2023年度大学院入学者の状況
2．2023年度学位授与者数
3．日本学術振興会特別研究員採用状況
4．2023年度大学院修了者の進路・就職状況

Ⅴ　2023年度事業内容・実績
1．奨学金および研究助成制度（修士・博士課程前期課程）
2．奨学金および研究助成制度（博士課程後期課程）
3．奨学金および研究助成制度（博士課程前期課程・後期課程共通）
4．NEXTフェローシップ・プログラム
5．立命館先進研究アカデミー次世代研究者育成プログラム
6．ティーチング・アシスタント(TA)制度
7．リサーチアシスタント（RA）、教学リサーチアシスタント（RA）、初任研究員、初任助教
8．キャリアマネジメントセミナー・スキルアップ講座
9．プロジェクトゼミナール
10．博士と企業のマッチングセミナー／京都クオリアフォーラム
11．京都クオリアフォーラム

（研究発信力向上のための支援）
12．立命館大学大学院リサーチプロポーザルコンテスト
13．100人論文at立命館大学
14．ライスボールセミナー

（外国語による研究発信力向上のための支援）
15．AI自動翻訳サービスMirai Translator®
16.オンライン英語論文個別指導による支援

◆ その他の支援
17．研究倫理セミナー
18．男女共同参画推進リサーチライフサポート室における取り組み
19．立命館大学若手研究者学術・キャリア情報検索システム（Ri-SEARCH）
20．学部生に向けた取り組み
21．日本学術振興会「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」による支援

# Ⅱ．大学院キャリアパス推進室長挨拶

2023年度のAnnual Reportをお届けします。

立命館大学大学院におけるキャリア形成支援の取り組みは、2007年度に「博士課程後期課程キャリアパス形成支援制度」として、学会発表や海外での研究活動を経済的に支援し、キャリア形成に資することを目的にスタートしました。その後、博士キャリアパス推進室を設置し、奨学金や研究助成制度の拡充に加え、各研究科の人材育成目的・教育目標や3つのポリシーに沿って、「大学院の人材育成目的の達成およびキャリアパスの明確化に向けた支援」を基本に人材育成計画を支援するため各種の取り組みを実施してきました。

2016年度には第4期キャリアパス形成支援制度を策定し、「大学院の人材育成目的の達成およびキャリアパスの明確化に向けた支援」という観点から、それまでの支援制度の到達点をふまえて、取組みの分野を①研究者・教育者・高度産業人としての基礎認識と社会環境理解の支援（修士・博士課程前期課程中心）、②博士課程後期課程の基礎認識と社会環境理解支援、③博士課程後期課程のキャリア開発支援の3つに分類しました。この3分野のそれぞれについて、各研究科の教育課程を踏まえ、教学部・研究部・キャリアセンターが連携して、大学院生や若手研究者をへの一体的な支援を進めてきました。

2017・2018年度には大学院学費を減額改定し、新たな大学院高度化施策として、「英語論文投稿支援制度」「国外共同研究奨学金」「博士論文出版助成制度」等の支援制度を制定しました。2018年度には、学会参加支援制度の変更や、リサーチ・アシスタント制度の拡充を行うとともに、本学修了生の学位取得後初のアカデミック・キャリアとして、理系分野対象の「初任助教制度」および全分野を対象とする「初任研究員制度」を設けました。これらの取り組みは、2023年度に研究部が主管する「若手研究者育成プログラム」に統合し、運用しています。

2019年度には、「連携型博士研究人材総合育成システム コンソーシアム」（北海道大学主管）への加入を契機に、博士課程後期課程大学院生の民間企業へのキャリアを支援する博士人材育成セミナー「社会・企業が求める博士のチカラ」を開催するとともに、大学院生を対象にした個別の進路相談会も実施しました。

2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大の中においても、オンラインを積極的に活用してセミナーを展開するなど、情勢の変化に応じた支援を行ってまいりました。そして、23年度より、本学において産学協働を主導してきた研究部が大学院キャリアパス推進室の所管となり、大学院生を独立した研究者とみなし、さらに充実した研究サポートにつなげるべく、活動を続けています。

2021年度に採択された文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」による「NEXTフェローシップ・プログラム事業」および2022年度採択のJST（国立研究開発法人科学技術振興機構）「次世代研究者挑戦的研究プログラム」による「立命館先進研究アカデミー（Ritsumeikan Advanced Research Academy （RARA））」をフィールドとする学生フェロー制度も順調に推移してきました。そして2023年度には、第一三共株式会社が募集を行う、社会・経済の変革をもたらすイノベーションの源泉となる『基礎研究』の発展を期待するとともに、日本の基礎研究を支え、世界へはばたく次世代研究者を応援する「はばたく次世代」応援寄付プログラムに、私立大学として唯一採択されました。さらに、科学技術振興機構（JST）が実施する「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」事業に、「RARA学生フェローシッププログラム（RARA×SPRING）」が採択され、博士後期課程学生が自らの専門研究分野を深めるだけでなく、分野を異にする他の研究者等との協働を通じてソーシャルインパクトを発揮することのできる「T型博士インパクトメーカー」の育成を目指しています。

これからも大学院生一人ひとりが目標とするキャリアパスを実現できるよう、個々の大学院生が抱える課題に寄り添う支援に力点を置きながら、「次世代研究大学」を目指し、大学院重視政策を謳う本学ならではの支援制度をさらに拡充していきたいと考えています。

2023年3月
立命館大学　大学院キャリアパス推進室長
立命館大学　副学長
野口　義文

# Ⅲ. 大学院キャリアパス推進室 体制・沿革

## 大学院キャリアパス推進室の構成

2023年度の大学院キャリアパス推進室は、研究担当副学長を室長として以下の体制で運営しました。また、大学院生のキャリアパス形成支援事業に関する方針の調整および決定を行うために、室長の下に大学院キャリアパス推進室会議を開催しています。

| | | |
|---|---|---|
| 室長 | 野口　義文 | 立命館大学　副学長 |
| 副室長 | 稲葉 光行 | 政策科学部教授 |
| 副室長 | 大窪　健之 | 理工学部教授 |
| 副室長 | 中本　大 | 文学部教授 |
| 副室長 | 篠田 博之 | 情報理工学部教授 |
| 運営委員 | 岡田 まり | 産業社会学部 |
| 運営委員 | 毛利　公一 | 情報理工学部教授 |
| 運営委員 | 荒木 努 | 理工学部 |
| 運営委員 | 森久　智江 | 法学部教授 |
| 運営委員 | 堤　治 | 生命科学部教授 |
| 運営委員 | 山本　誠一 | OIC総合科学技術研究機構（大学院キャリアパス推進室コーディネーター） |
| 運営委員 | 辻井　英吾 | キャリアセンター次長 |
| 事務局長 | 出口 昌良 | 研究部次長 |

## 沿革

| | |
|---|---|
| 2007年度 | ・博士課程後期課程キャリアパス形成支援制度を創設<br>・博士課程後期課程院生のキャリアパス形成に資する学会発表や海外での研究活動を経済的に支援する取り組みからスタート |
| 2010年度 | ・博士キャリアパス推進室を設置<br>・第2期博士課程後期課程キャリアパス形成支援制度に基づき、奨学金・研究助成制度の拡充に加え、課程博士の輩出、日本学術振興会特別研究員採用者数の増加、修了者・満期退学者の進路・就職状況の把握、大学院生向けのセミナー開催等、一定の成果と本制度の定着化を図る |
| 2013年度 | 大学院キャリアパス推進室に改組し、第3期キャリアパス形成支援制度に基づき、修士・博士前期と博士後期一体となった支援を実施することとなる。文系、理系のそれぞれの研究分野が抱える課題に応じたキャリアパス形成支援の取り組みを行う。 |
| 2016年度 | 第4期キャリアパス形成支援制度として「大学院の人材育成目的の達成およびキャリアパスの明確化に向けた支援」という基本的な考え方に基づき、多様な属性を持つ大学院生や研究者を対象にキャリアパス形成のための支援に注力。大学院高度化政策予算を活用して初任研究員や初任助教といった学位取得後のポストを創出。 |
| 2021年度 | 文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」およびJST（国立研究開発法人科学技術振興機構）「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択。両事業で最大90名規模の博士課程後期課程院生への経済支援を実現。 |
| 2022年度 | 第4期研究高度化中期計画において、博士課程後期課程院生のキャリア支援を主としながら、研究助成制度はじめ研究環境支援について研究部として取り組むことを提起。2023年4月よりキャリアパス推進室の主管を教学部から研究部に移管することを決定。 |
| 2023年度 | 2023年4月よりキャリアパス推進室の主管を教学部から研究部に移管。2023年10月に第一三共株式会社が募集を行った「はばたく次世代」応援寄付プログラムに、私立大学として唯一採択。科学技術振興機構（JST）が実施する「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」事業に、「RARA学生フェローシッププログラム（RARA×SPRING）」が採択。 |

# Ⅳ. 本学大学院の状況

## 1. 2023年度大学院入学者・在学者の状況

【図表1-1 修士・博士課程前期課程、専門職学位課程入学者数推移】

| 研究科 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 入学定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 法学 | 29 | 16 | 7 | 26 | 30 | 60 |
| 経済学 | 43 | 48 | 47 | 40 | 44 | 50 |
| 経営学 | 34 | 38 | 48 | 40 | 31 | 60 |
| 社会学 | 32 | 42 | 39 | 33 | 23 | 60 |
| 文学 | 60 | 44 | 43 | 47 | 51 | 105 |
| 理工学 | 356 | 437 | 429 | 372 | 460 | 450 |
| 国際関係 | 65 | 66 | 63 | 67 | 64 | 60 |
| 政策科学 | 16 | 23 | 34 | 31 | 43 | 40 |
| 応用人間科学 | 4 | - | - | - | - | - |
| 言語教育情報 | 37 | 34 | 33 | 32 | 37 | 60 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 54 | 61 | 69 | 59 | 80 | 70 |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 27 | 27 | 35 | 23 | 31 | 25 |
| 映像 | 10 | 9 | 10 | 10 | 11 | 10 |
| 情報理工学 | 197 | 188 | 187 | 184 | 189 | 200 |
| 生命科学 | 157 | 107 | 153 | 155 | 156 | 150 |
| 薬学※1 | - | 32 | 31 | 29 | 32 | 20 |
| 人間科学 | 55 | 64 | 57 | 66 | 61 | 65 |
| 食ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ※1 | - | - | 18 | 17 | 18 | 20 |
| 法務 | 46 | 46 | 60 | 59 | 74 | 70 |
| 経営管理 | 59 | 55 | 59 | 63 | 77 | 80 |
| 教職 | 26 | 26 | 27 | 29 | 23 | 35 |
| 合計 | 1172 | 1236 | 1303 | 1231 | 1535 | 1505 |

【図表1-2 博士課程後期課程入学者数推移】

| 研究科 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 入学定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 法学 | 2 | 3 | 3 | 1 | 1 | 10 |
| 経済学 | 4 | 7 | 5 | 11 | 6 | 5 |
| 経営学 | 5 | 3 | 4 | 7 | 3 | 15 |
| 社会学 | 1 | 4 | 7 | 3 | 10 | 15 |
| 文学 | 18 | 16 | 14 | 13 | 17 | 35 |
| 理工学 | 29 | 26 | 13 | 25 | 24 | 40 |
| 国際関係 | 8 | 9 | 8 | 10 | 8 | 10 |
| 政策科学 | 6 | 5 | 5 | 9 | 5 | 15 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 9 | 10 | 3 | 8 | 9 | 5 |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 4 | 7 | 13 | 8 | 12 | 8 |
| 情報理工学 | 15 | 12 | 23 | 19 | 15 | 15 |
| 生命科学 | 4 | 9 | 10 | 4 | 13 | 15 |
| 薬学※ | - | - | 5 | 4 | 4 | 3 |
| 人間科学 | 26 | 20 | 24 | 17 | 22 | 20 |
| 食ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ※ | - | - | 2 | 3 | 5 | 3 |
| 合計 | 131 | 131<br>13 | 139 | 142 | 154 | 214 |

※「-」について： 2021年度より薬学研究科および食ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研究科を設置

【図表1-3 博士課程入学者数推移】

| 研究科 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 入学定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 先端（5年一貫制） | 14 | 14 | 16 | 20 | 24 | 30 |
| 薬学（4年制） | 7 | 2 | 2 | 0 | 4 | 3 |
| 合計 | 21 | 16 | 18 | 20 | 28 | 33 |

【図表1-4 修士・博士課程前期課程、専門職学位課程在学者数推移】

| 研究科 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 収容定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 法学 | 45 | 46 | 23 | 35 | 58 | 120 |
| 経済学 | 115 | 100 | 85 | 87 | 87 | 100 |
| 経営学 | 73 | 72 | 89 | 88 | 71 | 120 |
| 社会学 | 62 | 82 | 89 | 82 | 63 | 120 |
| 文学 | 132 | 126 | 103 | 102 | 107 | 210 |
| 理工学 | 763 | 808 | 874 | 824 | 856 | 900 |
| 国際関係 | 141 | 148 | 138 | 16 | 152 | 120 |
| 政策科学 | 78 | 47 | 49 | 64 | 74 | 80 |
| 言語教育情報 | 93 | 78 | 67 | 71 | 76 | 120 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 147 | 121 | 139 | 128 | 129 | 140 |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 58 | 55 | 67 | 65 | 59 | 50 |
| 映像 | 18 | 19 | 21 | 21 | 22 | 20 |
| 情報理工学 | 398 | 394 | 381 | 371 | 387 | 400 |
| 生命科学 | 313 | 249 | 267 | 311 | 316 | 300 |
| 薬学※1 | - | 48 | 62 | 61 | 61 | 40 |
| 人間科学 | 115 | 131 | 133 | 137 | 132 | 130 |
| 食ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ※1 | - | - | 18 | 35 | 38 | 40 |
| 法務 | 79 | 91 | 113 | 131 | 149 | 210 |
| 経営管理 | 112 | 119 | 117 | 12 | 140 | 160 |
| 教職 | 68 | 56 | 55 | 59 | 55 | 70 |
| 合計 | 2810 | 2790 | 2890 | 2930 | 3032 | 3450 |

※1 「-」について： 2020年度より薬学研究科、2021年度より食ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研究科を設置

【図表1-5 博士課程後期課程在学者数推移】

| 研究科 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 収容定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 法学 | 6 | 8 | 11 | 11 | 7 | 30 |
| 経済学 | 18 | 20 | 17 | 20 | 24 | 15 |
| 経営学 | 13 | 15 | 18 | 24 | 25 | 45 |
| 社会学 | 62 | 59 | 61 | 50 | 46 | 45 |
| 文学 | 92 | 91 | 87 | 84 | 86 | 105 |
| 理工学 | 76 | 83 | 86 | 74 | 77 | 120 |
| 国際関係 | 35 | 39 | 46 | 47 | 48 | 30 |
| 政策科学 | 32 | 26 | 23 | 23 | 26 | 45 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 33 | 35 | 31 | 27 | 25 | 15 |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 35 | 36 | 44 | 49 | 47 | 24 |
| 情報理工学 | 38 | 47 | 57 | 64 | 66 | 45 |
| 生命科学 | 27 | 30 | 24 | 24 | 30 | 45 |
| 薬学※ | - | - | 5 | 8 | 12 | 9 |
| 人間科学 | 49 | 66 | 84 | 94 | 99 | 60 |
| 食ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ※ | - | - | 2 | 5 | 10 | 9 |
| 合計 | 516 | 555 | 596 | 304 | 628 | 642 |

※1 「-」について： 2020年度より薬学研究科、2021年度より食ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研究科を設置

【図表1-6 修士・博士課程前期課程、専門職学位課程在学者数推移】

| 研究科 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 入学定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 先端（5年一貫制） | 168 | 168 | 176 | 186 | 197 | 150 |
| 薬学（4年制） | 17 | 15 | 12 | 11 | 10 | 12 |
| 合計 | 185 | 183 | 188 | 197 | 207 | 162 |

## 2. 2023年度学位授与者数

### 修士学位・専門職学位授与者数

年度ごとに増減はあるものの、2010年代中盤の授与者数が1,100名前後であったことに鑑みると、中長期的には増加しているといえます。2023年度は、2021年度入学生が前年度より減少したため、修了者も若干減少しました。

【図表2-1修士学位・専門職学位授与者数推移】

| 研究科 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 法学 | 13 | 27 | 12 | 7 | 26 |
| 経済学 | 59 | 58 | 39 | 45 | 39 |
| 経営学 | 39 | 31 | 39 | 48 | 39 |
| 社会学 | 19 | 31 | 36 | 41 | 34 |
| 文学 | 48 | 60 | 44 | 41 | 43 |
| 理工学 | 382 | 350 | 414 | 407 | 369 |
| 国際関係 | 65 | 72 | 69 | 57 | 68 |
| 政策科学 | 55 | 32 | 18 | 25 | 29 |
| 応用人間科学※1 | 4 | - | - | - | - |
| 言語教育情報 | 48 | 39 | 28 | 34 | 29 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 85 | 51 | 60 | 68 | 59 |
| 公務※1 | 1 | - | - | - | - |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 28 | 23 | 23 | 34 | 21 |
| 映像 | 8 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 情報理工学 | 172 | 188 | 178 | 170 | 179 |
| 生命科学 | 148 | 132 | 106 | 142 | 150 |
| 先端総合学術 | 2 | 1 | 5 | 3 | 5 |
| 薬※2 | - | 16 | 30 | 31 | 28 |
| 人間科学※2 | 46 | 54 | 61 | 63 | 59 |
| 食マネジメント※2 | - | - | - | 15 | 17 |
| 法務 | 20 | 30 | 34 | 46 | 43 |
| 経営管理 | 47 | 60 | 56 | 59 | 60 |
| 教職※2 | 37 | 24 | 25 | 26 | 31 |
| 合計 | 1326 | 1287 | 1286 | 1372 | 1332 |

※1　応用人間科学研究科、公務研究科は2018年4月～募集停止

※2 「-」について： 2018年度より人間科学研究科、2020年度より薬学研究科（修士課程）、2021年度より食マネジメント研究科を設置

## 博士学位授与者数

本学は、2007年度に博士課程後期課程大学院生を対象にしたキャリアパス形成支援制度を創設し、課程博士の学位取得者を年間100名輩出するという目標を掲げ、各種支援に取り組んできました。以降、本学の博士学位授与者数（論文博士学位取得者数除く）は徐々に数を伸ばし、2022年度は初めて100名を超え、2023年度は122名となりました。

【図表2-2 博士学位授与者数推移】

| 研究科 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 法学 | 1(0) | 0(0) | 2(1) | 4(0) | 5(1) |
| 経済学 | 1(0) | 10(0) | 4(0) | 4(0) | 5(0) |
| 経営学 | 1(0) | 0(0) | 1(0) | 0(0) | 4(0) |
| 社会学 | 3(0) | 1(0) | 7(0) | 11(2) | 9(0) |
| 文学 | 14(0) | 13(0) | 16(3) | 11(1) | 17(2) |
| 理工学（理学） | 6(1) | 3(0) | 4(0) | 3(0) | 3(0) |
| 理工学（工学） | 13(2) | 12(1) | 14(1) | 13(0) | 8(1) |
| 国際関係 | 4(0) | 4(0) | 4(0) | 4(0) | 7(0) |
| 政策科学 | 9(0) | 5(1) | 4(0) | 5(0) | 3(0) |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 4(0) | 6(0) | 6(0) | 5(0) | 4(0) |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 7(0) | 5(0) | 0(0) | 12(1) | 8(0) |
| 情報理工学（工学） | 3(0) | 3(0) | 12(0) | 10(0) | 13(1) |
| 生命科学（理学） | 5(0) | 12(1) | 2(0) | 3(0) | 6(0) |
| 生命科学（工学） | 1(0) | 2(0) | 2(0) | 1(0) | 3(0) |
| 先端総合学術 | 7(0) | 5(0) | 6(0) | 3(0) | 11(0) |
| 薬学 | 4(0) | 5(0) | 1(0) | 4(0) | 3(1) |
| 薬科学 | - | - | - | - | 4(0) |
| 人間科学（人間科学） | - | 4(0) | 2(0) | 9(1) | 12(1) |
| 人間科学（心理学） | - | 0(0) | 3(0) | 4(0) | 3(0) |
| 食マネジメント | - | - | - | - | 1(0) |
| 合計 | 83(3) | 90(3) | 90(5) | 106(5) | 129(7) |

※　（ ）内は論文博士学位授与者数

※　遡及適用者を含まない。

## 3. 日本学術振興会特別研究員採用状況

日本学術振興会特別研究員は、採択された方の多くが常勤の研究職に就いており、若手研究家の登竜門といわれています。大学院キャリアパス推進室では、将来研究者を目指す大学院生にとって、特別研究員に採用されることは、キャリアパス形成への重要なステップであるとの観点から、申請者への支援を行っています。アカデミック・キャリアを目指す大学院生のみなさんのキャリア獲得に繋がるように、「制度概要や書き方を伝えるガイダンスを設け、申請者の完成度を高めるための施策」と「将来申請する潜在層に対して研究業績や能力向上を促すための施策」の両面から取り組んでいます。

### 申請ガイダンス・申請手続き

2023年度（令和5年度）採用に向けた申請手続きは、次のとおり実施しました。

| | |
|---|---|
| ガイダンス | 4月5日・7日　（zoomによるオンライン開催） |
| 電子申請ID申請締切<br>電子申請ID発行および配布 | 4月14日　締切後も随時<br>電子申請アカウント発行およびID配布開始（メール配布） |
| RPD学内申請期間 | 4月17日～5月14日 |
| DC1・DC2・PD学内申請期間 | 5月16日～6月5日 |

### 特別研究員採用に向けた支援の取り組み

（1）ガイダンス動画の配信

・学振特別研究員の概要
・申請にあたってのスケジュール、手続き方法
・書面審査通過に向けた申請書作成にあたっての注意事項やポイント
・特別研究者採択者による体験談（申請書を作るうえで気をつけた点、取り組んだこと）

【図表3-1　ガイダンス参加者数】

| 実施日 | セミナー名 | 開催形態 | 計 |
|---|---|---|---|
| 4月5日・7日 | 学振特別研究員申請ガイダンス | オンライン | 139 |

（2）特別研究員申請支援セミナーの開催

大学院キャリアパス推進室では、日本学術振興会特別研究員の申請に向けて、「日本学術振興会特別研究員申請書直前ブラッシュアップセミナー」を開催しました。セミナーでは、特別研究員の採択者を講師に、申請予定者（参加者）が作成した申請書を元に、ピアレビューを行い、改善に向けたアドバイスや作成する上で悩んでいる事への質疑応答・相談を行いました。

【図表3-2　セミナー参加者数】

| 実施日 | セミナー名 | 会場 | 計 |
|---|---|---|---|
| 5月10日・12日 | 2023年度　日本学術振興会　特別研究員<br>申請書直前ブラッシュアップセミナー | オンライン | 15 |

## 申請および採用結果

2024年度採用における申請者数は113名であり、2023年度（101名）より微増しました。採用者数はDC全体で8名と2023年度採用の11名から3名減となりました。採用者数が多い研究科は、理工学研究科科（4名）です。

【図表3-3　2024年度採用日本学術振興会特別研究員申請・採用結果 種別】

| 種別 | 申請者数 | 1次採用内定者数 | 最終採用内定者数 | 採用率 |
|---|---|---|---|---|
| DC1 | 56 | 3 | 3 | 5.4% |
| DC2 | 57 | 5 | 5 | 8.8% |
| 合計 | 113 | 8 | 8 | 7.1% |

【図表3-4　2024年度採用日本学術振興会特別研究員申請・採用結果　研究科別】

| 出身研究科 | DC1 | | DC2 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 申請数 | 採用内定 | 申請数 | 採用内定 | 申請数 | 採用内定 |
| 法学 | 2 | - | 2 | - | 4 | - |
| 経済学 | 2 | - | 0 | - | 2 | - |
| 経営学 | 4 | - | 0 | - | 4 | - |
| 社会学 | 2 | - | 7 | - | 9 | - |
| 文学 | 7 | - | 3 | - | 10 | - |
| 理工学 | 6 | 2 | 13 | 2 | 19 | 4 |
| 国際関係 | 2 | - | 0 | - | 2 | - |
| 政策科学 | - | - | 1 | - | 1 | - |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | - | - | - | - | - | - |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 3 | - | 4 | - | 7 | - |
| 情報理工学 | 6 | - | 5 | 1 | 11 | 1 |
| 生命科学 | 5 | - | 4 | 1 | 9 | 1 |
| 先端総合学術 | 4 | - | 7 | 1 | 11 | 1 |
| 薬学 | 5 | - | 3 | - | 8 | - |
| 人間科学 | 4 | - | 8 | - | 12 | - |
| 食マネジメント | 2 | - | 0 | - | 2 | - |
| 他大学など | 1 | 1 | - | - | 1 | 1 |
| 合計 | 56 | 3 | 57 | 5 | 113 | 8 |

## 特別研究員の採用状況

2014年度採用から、これまで申請資格であった「採用時34歳未満であること」という資格が廃止されたことで、多くの大学院生に特別研究員の申請・採用のチャンスが生まれました。このうち、本学に在学する大学院生が採用されるDC1・DC2区分の採用数の推移については、2016年度に採用者数（18名）・採用率（20.0%）ともに最高を記録しましたが、その後は若干減少し、現在は横ばいの状況です。2024度DC採用の採用率は7.0%であり、2023年度(10.9%)と比較すると約4%減となりました。

【図表3-5 日本学術振興会特別研究員申請者数・採用者数推移】

| 採用年度 | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | | 2023度 | | 2024度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 種別 | 申請 | 採用 | 申請 | 採用 | 申請 | 採用 | 申請 | 採用 | 申請 | 採用 |
| DC1 | 40 | 7 | 41 | 7 | 35 | 8 | 46 | 2 | 56 | 3 |
| DC2 | 66 | 6 | 70 | 7 | 73 | 7 | 55 | 9 | 57 | 5 |
| PD | 34 | 11 | 23 | 6 | 22 | 5 | 26 | 10 | 29 | 6 |
| RPD | 5 | 3 | 5 | 1 | 2 | 1 | 4 | 3 | 3 | 3 |
| 合計 | 145 | 27 | 139 | 21 | 132 | 21 | 131 | 24 | 145 | 17 |

【採用区分について】
DC1：博士課程（博士後期課程又はそれに相当する課程）在学中の学生を採用（採用期間3年間、研究奨励金月額20万円、年間150万円以内の科研費）

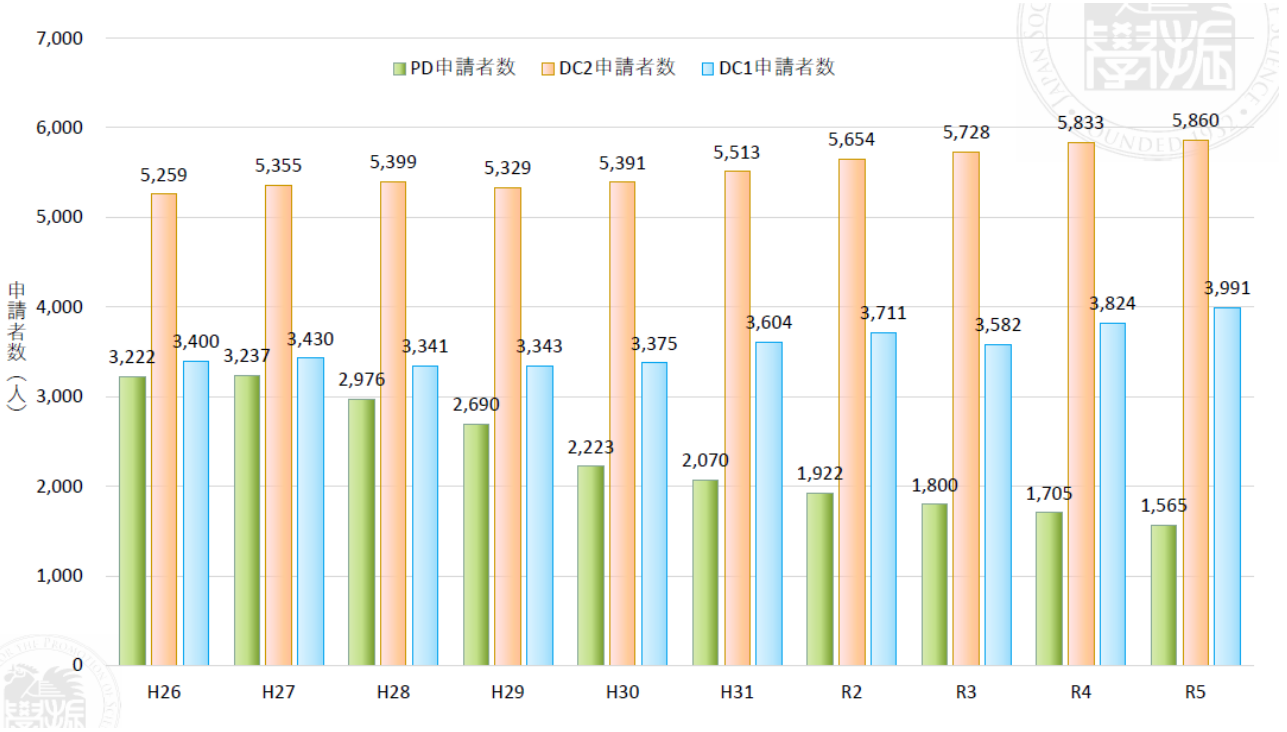
DC2：博士課程（博士後期課程又はそれに相当する課程）在学中の学生を採用（採用期間2年間、研究奨励金月額20万円、年間150万円以内の科研費）

PD：博士の学位を取得している者、又は我が国の人文学又は社会科学の分野の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得のうえ退学し、博士の学位を取得したものに相当する能力を有すると認められる者、又は博士の学位を取得する見込みがなく我が国の大学院博士課程に標準修業年限を超えて在学することになる者を採用（採用期間3年間、研究奨励金月額36.2万円、年間150万円以内の科研費　※博士学位未取得者は月額20万円、年間150万円以内の科研費）

RPD：博士の学位を取得している者、又は我が国の人文学又は社会科学の分野の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得のうえ退学し、博士の学位を取得したものに相当する能力を有すると認められる者、且つ出産・育児のため3ヶ月以上研究活動を中断した者で、未就学児を養育している者、又は遡って過去5年以内に、出産又は疾病や障害のある子を養育した者を採用（採用期間2年間、研究奨励金月額36.2万円、年間150万円以内の科研費　※博士学位未取得者は月額20万円、年間150万円以内の科研費）

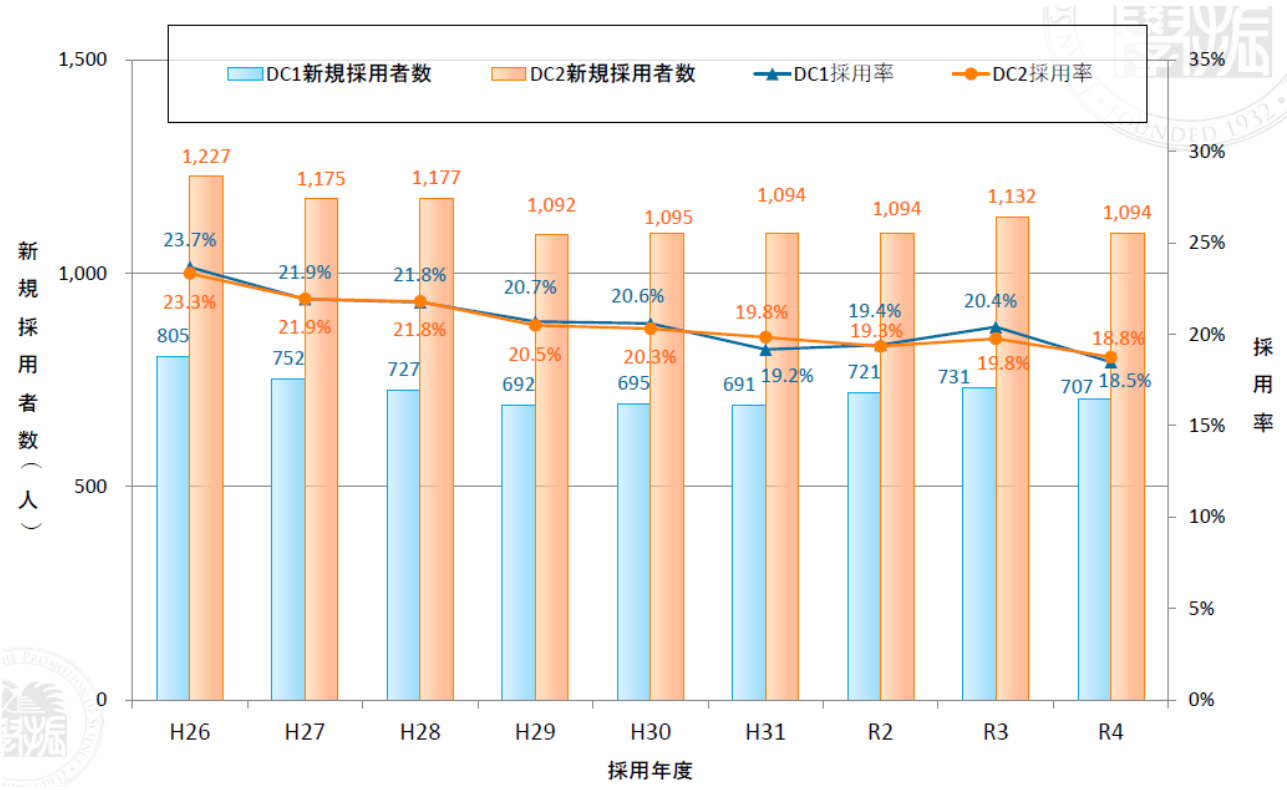
【図表3-6 日本学術振興会特別研究員申請者数の推移】

＜特別研究員（DC、PD）の全国申請者数の推移＞




【図表3-7 全国的な特別研究員採用者数・採用率の推移】

＜特別研究員（DC）新規採用者数と採用率の推移＞



## 4．2023年度大学院修了者の進路･就職状況

### 修士･博士課程前期課程修了者

| 研究科 | 修了者 (A) | 就職決定 (B) | 進学 (C) | その他 (D) | 就職活動継続(E) | 進路把握率 (F) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 法学 | 26 | 22 | 2 | 2 | 0 | 100.0% |
| 経済学 | 39 | 24 | 5 | 8 | 2 | 100.0% |
| 経営学 | 39 | 20 | 6 | 10 | 3 | 97.4% |
| 社会学 | 34 | 22 | 2 | 6 | 4 | 100.0% |
| 文学 | 43 | 25 | 7 | 10 | 1 | 97.7% |
| 理工学 | 369 | 338 | 15 | 11 | 5 | 99.7% |
| 国際関係 | 68 | 34 | 9 | 19 | 6 | 98.5% |
| 政策科学 | 29 | 14 | 0 | 10 | 5 | 96.6% |
| 言語教育情報 | 29 | 14 | 1 | 11 | 3 | 100.0% |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 52 | 38 | 1 | 12 | 1 | 96.2% |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 21 | 15 | 6 | 0 | 0 | 100.0% |
| 映像 | 11 | 6 | 2 | 2 | 1 | 100.0% |
| 情報理工学 | 179 | 145 | 12 | 16 | 6 | 98.3% |
| 生命科学 | 150 | 137 | 9 | 2 | 2 | 100.0% |
| 薬学 | 28 | 21 | 6 | 1 | 0 | 100.0% |
| 人間科学 | 59 | 41 | 8 | 7 | 3 | 94.9% |
| 食マネジメント | 17 | 12 | 1 | 1 | 3 | 100.0% |
| 経営管理 | 60 | 41 | 1 | 17 | 1 | 83.3% |
| 教職 | 31 | 29 | 0 | 2 | 0 | 96.8% |
| 合計 | 1284 | 998 | 93 | 147 | 46 | 98.9% |

※修了者(A)には春学期修了者（2022年9月修了者）および早期修了者を含む。
※就職決定(B)･･･就職者(民間･公務員･教員）、在学中から引続きの就業者、家業、プロ契約、起業、就職見込有り。
※進学(C)･･･大学院、海外の大学･大学院、他大学、各種学校。
※その他(D)･･･資格試験･進学等の受験準備、就職意思なし、アルバイト、帰国、留学など。
※進路把握率(F)＝( 就職決定(B) ＋大学院進学(C) ＋その他(D) ) ÷修了者(A)×100

# Ⅴ．2023年度事業内容･実績

## 1．奨学金および研究助成制度（修士･博士課程前期課程）

### 1年次対象成績優秀者奨学金

1年次対象成績優秀者奨学金は、入学試験(転入学のための試験を除く)で優秀な成績を収めた者が大学院修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程または専門職学位課程に入学することの奨励を目的としている。なお、各区分の給付額･給付割合は、研究科によって異なる。

**2023度　採択者数**

【図表1-1．1年次Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ･Ⅳ･Ⅴ採択状況】

| 研究科 | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ |
|---|---|---|---|---|---|
| 法学 | | 4 | | | |
| 経済学 | 7 | 11 | 1 | | |
| 経営学 | 6 | 2 | | | |
| 社会学 | 1 | 6 | | | |
| 文学 | 11 | | | | |
| 理工学 | 11 | 107 | | | |
| 国際関係 | 1 | 2 | 6 | | |
| 政策科学 | 1 | 4 | | | |
| 言語教育情報 | | 8 | | | |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | | | 31 | | |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | | 8 | | | |
| 映像 | | 2 | 2 | | |
| 情報理工学 | 46 | 34 | | | |
| 生命科学 | 53 | | | | |
| 先端総合学術 | | 4 | | | |
| 人間科学 | 16 | | | | |
| 薬学 | 8 | 8 | | | |
| 食マネジメント | | 5 | | | |
| 教職 | | 7 | | | |
| 合計 | 161 | 212 | 40 | | |
| 給付総額 | | | | | 107,775,000 |

## 2年次対象成績優秀者奨学金

2年次対象成績優秀者奨学金は、本学大学院の修士課程、博士課程前期課程および一貫制博士課程（1年次入学）の第3・4セメスターに相当する期間の奨学金です。優秀な学修および研究を行っている大学院学生を育英し、さらなる学修および研究を奨励することを目的としたものです。なお、Ⅰ～Ⅲの区分の給付額・給付割合は、研究科によって異なります。

**2023度　採択者数**

【図表1-2. 2年次Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ採択状況】

| 研究科 | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ |
|---|---|---|---|
| 法学 | 1 | 5 | |
| 経済学 | 4 | 2 | 4 |
| 経営学 | 8 | 4 | |
| 社会学 | 1 | 7 | |
| 文学 | 1 | 10 | |
| 理工学 | 12 | 82 | |
| 国際関係 | 3 | 11 | |
| 政策科学 | 2 | 3 | |
| 言語教育情報 | | 9 | |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 2 | 3 | 17 |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | | 6 | |
| 映像 | 1 | 1 | 1 |
| 情報理工学 | 45 | 21 | |
| 生命科学 | 48 | 7 | |
| 先端総合学術 | | 3 | |
| 人間科学 | 2 | 17 | |
| 薬学 | 7 | 7 | |
| 食マネジメント | 2 | 1 | |
| 教職 | 2 | 3 | |
| 合計 | 141 | 202 | 22 |
| 給付総額 | | | 97,700,000 |

## 博士課程前期課程学生学会奨学金

学会発表は、修士・博士課程前期課程の大学院生にとっても、学術的な経験を積む貴重な研鑽の場であると言えます。その学会発表を一人でも多くの大学院生が経験できるよう、学会参加および学会発表を奨励し、援助することを目的としています。

### （1）支給額の上限および支給回数

【図表1-3　支給額】

| 種類 | 支給金額※ |
|---|---|
| 学会参加奨励(オンライン参加) | 5,000円 |
| 学会参加奨励(現地参加) | 10,000円 |
| 学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催) | 20,000円 |
| 学会発表奨励（国内現地発表） | 30,000円 |
| 学会発表奨励（国外現地発表） | 100,000円 |

奨学金の支給回数は、年次ごとに以下の回数制限を設けています。

【図表1-4 支給回数の上限】

<table>
<tr><td>学会参加奨励(オンライン参加)</td><td rowspan="2">年次1回まで</td><td rowspan="5">5種の奨学金からいずれか年次2回まで</td></tr>
<tr><td>学会参加奨励(現地参加)</td></tr>
<tr><td>学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催)</td><td rowspan="2">年次2回まで</td></tr>
<tr><td>学会発表奨励（国内現地発表）</td></tr>
<tr><td>学会発表奨励（国外現地発表）</td><td>年次1回まで</td></tr>
</table>

## （2）支給執行総額・支給件数

【図表1-5　学会参加奨励(オンライン参加) 執行総額・給付件数】

| 研究科 | 補助件数 |
|---|---|
| 法学 | 1 |
| 経済学 | |
| 経営学 | |
| 社会学 | |
| 文学 | |
| 理工学 | 2 |
| 国際関係 | |
| 政策科学 | |
| 言語教育情報 | |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | |
| 映像 | |
| 情報理工学 | 1 |
| 生命科学 | |
| 先端総合学術 | |
| 薬学 | |
| 人間科学 | 1 |
| 食マネジメント | |
| 合計 | 5 |

【図表1-6　学会参加奨励(現地参加) 執行総額・給付件数】

| 研究科 | 補助件数 |
|---|---|
| 法学 | 2 |
| 経済学 | 7 |
| 経営学 | |
| 社会学 | |
| 文学 | 6 |
| 理工学 | 28 |
| 国際関係 | 1 |
| 政策科学 | 3 |
| 言語教育情報 | 4 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 2 |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 10 |
| 映像 | 1 |
| 情報理工学 | 10 |
| 生命科学 | 19 |
| 先端総合学術 | 7 |
| 薬学 | 8 |
| 人間科学 | 7 |
| 食マネジメント | 1 |
| 合計 | 116 |

【図表1-7　学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催) 執行総額・給付件数】

| 研究科 | 補助件数 |
|---|---|
| 法学 | |
| 経済学 | |
| 経営学 | |
| 社会学 | 5 |
| 文学 | |
| 理工学 | 7 |
| 国際関係 | |
| 政策科学 | 1 |
| 言語教育情報 | 2 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 1 |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | |
| 映像 | |
| 情報理工学 | 9 |
| 生命科学 | 1 |
| 先端総合学術 | 1 |
| 薬学 | |
| 人間科学 | 2 |
| 食マネジメント | |
| 合計 | 29 |

【図表1-8　学会発表奨励（国内現地発表）執行総額・給付件数】

| 研究科 | 補助件数 |
|---|---|
| 法学 | |
| 経済学 | 5 |
| 経営学 | 4 |
| 社会学 | 3 |
| 文学 | 24 |
| 理工学 | 344 |
| 国際関係 | 7 |
| 政策科学 | 3 |
| 言語教育情報 | 1 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 4 |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 12 |
| 映像 | 8 |
| 情報理工学 | 181 |
| 生命科学 | 232 |
| 先端総合学術 | 2 |
| 薬学 | 41 |
| 人間科学 | 25 |
| 食マネジメント | 5 |
| 合計 | 901 |

【図表1-9　学会発表奨励（国外現地発表）執行総額･給付件数】

| 研究科 | 補助件数 |
|---|---|
| 法学 | |
| 経済学 | 2 |
| 経営学 | 1 |
| 社会学 | |
| 文学 | 22 |
| 理工学 | 88 |
| 国際関係 | 2 |
| 政策科学 | 1 |
| 言語教育情報 | |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 9 |
| 映像 | 3 |
| 情報理工学 | 53 |
| 生命科学 | 20 |
| 先端総合学術 | |
| 薬学 | 11 |
| 人間科学 | 2 |
| 食マネジメント | 2 |
| 合計 | 216 |

## 博士課程前期課程研究実践活動補助金

本補助金は、研究科の人材育成目的および3つのポリシー（学位授与方針、教育課程編成･実施方針、入学者受入れ方針）に基づいて、学外で実施する研究実践活動への参加を奨励し、援助することを目的とする制度です。

（1）研究実践活動補助金採択プログラム、補助執行総額

【図表1-10　国内研究実践活動プログラム一覧】

| 研究科 | 研究実践活動・プログラム名 | 参加人数 | 執行金額（円） |
|---|---|---|---|
| 法学 | 法務実習 | 11 | 205,000 |
| 経済学 | 税財務インターンシップ | 4 | 70,000 |
| 文学 | 国内派遣型　文化財アーカイブ関連組織実務実習プログラム | 5 | 60,000 |
| 理工学 | 建築士事務所におけるインターンシッププログラム | 8 | 215,000 |
| 国際関係学 | 国内インターンシップ／国内フィールドリサーチ活動 | | |
| 政策科学 | Regional co-creation study | 10 | 150,000 |
| | 地域共創研究 | 1 | 30,000 |
| 言語教育情報 | 日本語教育実習 | 8 | 160,000 |
| テクノロジー･マネジメント | プラクティカム（課題解決型長期企業実習） | 30 | 900,000 |
| スポーツ健康科学 | スポーツ人文社会科学演習Ⅱ・Ⅲ、身体運動科学演習Ⅱ・Ⅲ、スポーツ健康科学キャリアプロジェクト（プロジェクト研究に基づくフィールドリサーチ） | | |
| 映像 | 映像現場研修 | | |
| | 科学映像の制作理論と制作 | 1 | 15,000 |
| 生命科学 | 国費特別プログラム【国内】現地実習 | | |
| 人間科学 | 学外実習03（震災復興支援） | 2 | 30,000 |
| | 人間科学特論（01） | 8 | 120,000 |
| 合計 | | 88 | 1,955,000 |

【図表1-11　国外研究実践活動プログラム一覧】

| 研究科 | 研究実践活動・プログラム名 | 参加人数 | 執行金額（円） |
|---|---|---|---|
| 経営学 | 特殊講義Ⅳ（デザイン・マネジメント） | 4 | 160,000 |
| 文学 | 海外派遣型　著名博物館・図書館実務実習プログラム | | |
| 理工学 | 建築士事務所におけるインターンシッププログラム | | |
| | パリ・ラ・ヴィレット国立高等建築学校交換留学プログラム | 2 | 400,000 |
| | 特殊講義（アドバンスト海外スタディ） | | |
| | 研究実践（インド大学派遣）プログラム | | |
| 理工学・情報理工学・生命科学・薬学 | 国際力を備えた技術系大学院学生の育成 | 13 | 1,220,000 |
| 理工学・情報理工学・生命科学 | インド工科大学ハイデラバード校PBLプログラム | 4 | 80,000 |
| 国際関係 | 国外インターンシップ活動／国外フィールドリサーチ活動 | 4 | 130,000 |
| 言語教育情報 | 日本語教育実習 | 7 | 210,000 |
| | Intensive Graduate TESOL Program at USQ（「TESOL教授法と実習」「TESOLリサーチスキルズ」） | 2 | 120,000 |
| スポーツ健康科学 | スポーツ人文・社会科学演習Ⅱ・スポーツ人文社会科学演習Ⅲ、身体運動科学演習Ⅱ・Ⅲ、スポーツ健康科学キャリアプロジェクト（プロジェクト研究に基づくフィールドリサーチ） | | |
| 情報理工学 | 夏期 海外IT研修「インド・シンビオシス国際大学」（共通科目：海外実習） | | |
| | 海外インターンシップ | 2 | 160,000 |
| 生命科学 | 国費特別プログラム【国外】現地実習 | | |
| 人間科学 | 学外実習06（ベトナム・ハノイ実習） | 3 | 90,000 |
| | 学外実習05（中国・蘇州実習） | 6 | 120,000 |
| 合計 | | 47 | 2,690,000 |

## 2. 奨学金および研究助成制度（博士課程後期課程）

### 研究奨励奨学金

本奨学金は、本学大学院に在学する優秀な研究業績を有する大学院生の授業料を援助することにより、当該課程における研究活動を奨励することを目的とする奨学金です。

（1）概要

【S給付】
テニュアポスト獲得においてきわめて重要なキャリアである日本学術振興会特別研究員への申請を奨励し、当該年度の研究員採用者および前年の募集における1次審査通過者について、授業料相当額の奨学金を給付します。（非公募制）

【A給付】
各研究科の人材育成目標に照らして優れた研究業績をあげた者、あるいはあげることが期待できる者（各研究科在学生数の5%を上限）に対して、S給付と同様に授業料相当額の奨学金を給付します。

【B給付】
A給付に準ずる者（各研究科在学生数の15%を上限）に対して、授業料の半額相当額の奨学金を給付します。

（2）2023年度給付・採択件数

【図表2-1　2023年度研究奨励奨学金給付総額・採択件数】

| 研究科 | A給付・B給付申請者数 | 採択件数 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | S | A | B |
| 法学 | 2 | | 1 | 1 |
| 経済学 | 2 | | 2 | |
| 経営学 | 7 | | 2 | 3 |
| 社会学 | 12 | 1 | 2 | 6 |
| 文学 | 15 | 2 | 4 | 9 |
| 理工学 | 18 | 2 | 4 | 12 |
| 国際関係 | 5 | 1 | 1 | 2 |
| 政策科学 | 1 | | | 1 |
| テクノロジー・マネジメント | 5 | | 2 | 3 |
| スポーツ健康科学 | 4 | 1 | 2 | 1 |
| 情報理工学 | 14 | 1 | 4 | 10 |
| 生命科学 | 10 | 2 | 2 | 5 |
| 先端総合学術 | 15 | 15 | 7 | 8 |
| 薬学（薬学専攻） | 6 | | 1 | 2 |
| 薬学（薬科学専攻） | 6 | | 1 | 2 |
| 人間科学 | 21 | 8 | 5 | 14 |
| 食マネジメント | 3 | 1 | 1 | 2 |
| 合計 | 146 | 34 | 41 | 81 |
| 給付総額 | | | | 52,575,000 |

（3）2022年度選考実施状況

本奨学金（A給付・B給付）については、概要に記載のとおり、各研究科の教育研究上の目的に基づき、当該研究科においてそれぞれ選考基準等を定めたうえで、採択者を選考しています。各研究科の選考にかかる方法および体制は、次の表のとおりです。

【図表2-2 博士課程後期課程研究奨励奨学金の選考状況】

| 研究科 | 2022年度選考総括 | | （参考）教育研究上の目的 |
|---|---|---|---|
| | 選考方法（評価ポイント） | 選考体制 | |
| 法学 | 法律学・政治学の研究者およびその高度な専門知識を必須とする職業分野で活躍しうる人の養成を目的とする。<br>法学専攻博士課程後期課程は、博士課程前期課程での研究成果を踏まえ、自らの専門領域について主体的に研究課題を定め、自らの独創的な視点で、研究計画にしたがって研究を進めるとともに、その成果を博士論文として結実させることができる自立した学術研究者等の育成を目的とする。 | 本研究科の人材育成目的をふまえつつ、申請書の「現在までの研究状況」「これからの研究計画」「研究の特色・独創的な点」の各欄の記載内容、及び研究業績に基づき評価を行う。なお、研究業績については、下記①～③の観点から評価を行う。<br>①学術雑誌等での論文の公表。<br>②研究報告。なお、本観点における評価の優先順位については、第一に国際会議、第二に全国規模の学会、第三に地域規模の学会・研究会、第四に学内の研究会とする。<br>③学術雑誌等での論文以外の論稿（「翻訳」等）の公表。 | 大学院教務委員会において書類選考を行い、その結果を法学部執行部会議で確認した上で、法学研究科委員会において採用者を決定する |
| 経済学 | 経済学の高度な専門性をもち、立命館憲章に定める「正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間」を育成することを目的とする。<br>博士課程後期課程は、広い視野と深い専門性および優れた独創性を持ち、そして新たな領域の研究分野を自ら切り開いてゆくことができる高い研究力量を備えた研究者を養成することを目的とする。また、世界的に高まっている博士学位を有する高度専門職業人へのニーズにこたえるため、留学生を含め国際通用力の高い論理的思考力と構想力および創造性を持った人材を養成することを目的とする。 | 人材育成目的に照らして、研究業績（論文、学会発表等）の評価を最優先とする。 | 研究科執行部により、書類選考を行い、執行部会議、研究科委員会にて採用者を決定する。 |
| 経営学 | 経営学の高度な専門力量をもったビジネスパーソンおよび研究者を養成することを目的とする。<br>博士課程後期課程は、経営学分野の研究活動を行うに必要な高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を持続できる自立した研究者の育成を目的とする。 | 本研究科の人材目的に即し、投稿論文数、学会発表の業績、修士論文内容を重視して点数化し、学業成績の評価とあわせて総合評価をおこなう。 | 大学院担当副学部長が原案を作成し、経営学研究科教学委員会、研究科委員会に諮り採用者を決定する。 |
| 社会学 | 現代社会が提起する諸問題を社会学と既存の学問諸分野との協同によって解明し、社会的に要請される実践的課題にこたえる研究者と専門職業人の養成を目標とする。<br>博士課程後期課程は、現代社会が提起する諸問題に関して、社会学を中心としつつも、社会諸科学の協同によって、先端的で多面的・学際的な理論と実証的な研究を行い、博士論文を執筆し、大学の教員や研究諸機関等の研究員として活躍できる人材を育成することを目的とする。 | ①後期課程1回生については、「研究の進捗状況と将来性」に重点をおき、それに「研究業績」を加え、2つの要素を総合的に判断する。<br>②後期課程2回生以上については、「研究業績」に重点をおき、「研究の進捗状況と将来性」を加え、2つの要素を総合的に判断した。判断にあたっては、点数化により客観化を行う。<br>「研究業績」については研究科で定めた「奨学金選考基準別表」の研究業績に関する評価基準に基づき審査を行う。 | 「研究の進捗状況と将来性」および「研究業績」の評価は研究科教学委員で分担して行い、執行部会議、研究科教学委員会、研究科委員会にて採用者を決定する。 |

| 研究科 | 2022年度選考総括 | | （参考）<br>教育研究上の目的 |
|---|---|---|---|
| | 選考方法（評価ポイント） | 選考体制 | |
| 文学 | 人文学専攻博士課程後期課程は、人文学の総合的な研究の場として、新たな学問(領域)を切り拓く高度な能力を有した人材を養成することで、人文学研究への社会的・現代的要請にも応えていくことを目的とする。<br>行動文化情報学専攻博士課程後期課程は、人文学と情報学を有機的に統合し、伝統的な人文学と実践的な情報学が探求してきた内容や方法論を修得・発展させ、その成果を共有・発信できる能力を有した人材を養成することで、人文学研究への社会的・現代的要請にも応えていくことを目的とする。 | 本研究科における教育研究上の人材育成目的に即して研究業績を重視し、各々の項目（博士論文、研究論文、著書、学会発表、その他）について点数化した業績シートを作成することによって、客観的に評価する。<br>特に査読誌や外国語雑誌に掲載された論文、また国際学会における発表を高く評価しているが、この方式では累積点に基づく評価となるため、低回生に不利な場合がある。そこで2016年度から累積点を回生で割る方式に変更し、点数の上位者から採用する。 | 申請者の所属専修において、申請者の業績を文学研究科の内規に基づいて点数化するシートを作成した。研究科執行部による業績シートの確認を経て、研究科委員会で評価を行い、採用者を決定する。 |
| 理工学 | 理工学の専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者、高度専門職業人を養成することを目的とする。<br>基礎理工学専攻博士課程後期課程は、数学または物理学の専門領域における高度な知識と創造　基礎理工学専攻博士課程後期課程は、数学または物理学の専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。<br>電子システム専攻博士課程後期課程は、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。<br>機械システム専攻博士課程後期課程は、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。<br>環境都市専攻博士課程後期課程は、土木工学・環境工学・建築学などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。 | 理工学研究科の人材育成目的に照らして、優れた研究業績をあげた者、あるいはあげることができる者。研究状況、研究計画、学会発表や論文数などの研究業績を総合的に評価して奨学金採用者を選考している。 | それぞれの専攻・コースにおける学系会議・学科会議等において、書類選考を行い、執行部会議、専攻長会議にて奨学金採用者を決定する。 |
| 国際関係 | グローバル化する現代社会を、政治、経済、文化・社会のそれぞれの側面において、学際的な社会科学のアプローチで解明する国際関係学の研究者、および国際関係学の専門知識をそなえ、国際社会で活躍する職業人を育成することを目的とする。<br>博士課程後期課程は、国際関係学の専門知識と異文化間の媒介能力とに裏打ちされた学際的・複眼的な視点に立ち、国際社会における秩序や平和の構築、国際開発・協力の促進、多文化社会の諸課題の解決などの課題について、独創的な分析を行う力を有する人材、および高度な専門家として実践的な課題解決に貢献する力を有する人材を育成することを目的とする。 | 以下の本研究科における選考内規に基づき、選考を行う。<br>1.研究成果について<br>①研究成果の期間設定<br>過去3年度以内（休学期間含む）の成果をカウントすることを確認（入学前も含むことを再確認）。年度のみ掲載されており、「過去3年」に含まれるか判断に迷う場合は、本人に確認すること。<br>※研究成果には、出版前ですでに掲載が確定しているものも含むこと。<br>②学年ごとの係数変更（研究成果）<br>D3×1、D2×1.5、D1×3<br>上記係数変更の考え方として、D3以下はD3の回生を基準に係数を算出。<br>D1：3/1=係数3 D2：3/2=係数1.5<br>2.研究計画について当該年度学振特別研究員申請に伴う、意欲の加点<br>0.5点。 | 研究科運営会議で原案を作成し、執行部会議、研究科委員会に諮り採用者を決定する。 |

| 研究科 | 2022年度選考総括 | | （参考）<br>教育研究上の目的 |
|---|---|---|---|
| | 選考方法（評価ポイント） | 選考体制 | |
| 政策科学 | 政策科学研究科は、現代社会の政策課題の発見と解決を促す知識の生産および人材育成の場であることを通じて、諸学の実践的総合による社会的要請への応答を目的としています。<br>政策科学研究科博士課程後期課程では、現代社会の政策課題の発見と解決を促す知識の生産および人材育成の場であることを通じて、諸学の実践的総合による社会的要請に応えるという目的を達成するため、現代社会が直面する政策課題とその適切な解決策の創造に関する研究能力の育成を目指しています。そして、政策科学の研究を通じて社会の諸問題に取り組むより高い能力を身につけた研究者を輩出することを、本課程の目標としています。 | 教育研究上の人材育成目的に照らし合わせて、本人の申請に基づき、研究成果、研究計画、研究報告書を総合的に評価、選考する。 | 政策科学研究科の選考方針に基づき、審査案について政策科学研究科委員会で審議のうえ、採用者を決定する。 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 科学技術の価値を理解し、社会発展に寄与する知識や技能・能力を持った人材を養成することを目的とする。<br>博士課程後期課程は、企業などにおける実践を普遍的、体系的概念や方法論に昇華し形式知化する研究者の育成を目指す。技術者・経営者など、技術経営の実践者としての経験を学問研究の場にフィードバックし、企業などにおける実践を普遍的、体系的概念や方法論に昇華し形式知化し、グローバルに活躍できる自由にして進取の気風に富んだ人材を育成することを目的とする。 | 申請日から遡って5年以内に公表した査読付き・査読なし論文の本数、著書、学会発表の本数等を勘案した上で総合的に審査し、採否と奨学金A・B の採用者を決定する。審査にあたっては、直近に公表した業績をより重視して評価する。 | MOT教員の中から複数名の選考委員を選出し、選考委員が書類審査のうえ採用案を作成する。採用案を教授会で審議し採用者を決定する。 |
| スポーツ健康科学 | スポーツ健康科学の高度な専門性に基づく理論と実践を有し、豊かな人間性とリーダーシップを備え、社会の発展に貢献する有為な人材の養成を目的とする。<br>博士課程後期課程は、スポーツ健康科学分野において先端の研究成果をあげ、その成果を実践に結びつけるとともに、研究プロジェクトなどにおいてリーダーシップを発揮することができる研究者の養成を目的とする。 | 教育研究上の人材育成目的に照らし合わせて、本人の申請に基づき、投稿論文や著書、国際／国内学会での研究発表等の研究業績をポイント化し、中でも国際的な業績を重視した上で、評価する。 | 研究科委員会にて、選考方針を定め、執行部によって指名された選考委員による選考委員会を行う。選考委員会による選考（案）は、研究科委員会にて採用者を審議・決定する。 |
| 情報理工学 | 情報学の高度な専門性を有する人材の育成を目的とする。<br>博士課程後期課程は、情報技術の応用、最先端の高度な理論および技術、研究倫理に関する知識、創造的問題発見能力、問題分析能力、問題解決能力、研究遂行能力ならびにコミュニケーション能力を備え、社会の重要な課題に革新的に取り組んで解決し、分野によらず国内外の第一線で活躍できる研究者および高度専門職業人を養成することを目的とする。 | 申請者の研究業績内容に応じて業績毎にポイント化し、ポイントの総計で選考する。対象となる業績は、①筆頭著者論文でかつ、査読付き論文誌掲載論文または査読付き国際会議の会議録掲載論文またはその他口頭発表・ポスター発表、ならびに②受賞である。業績にはエビデンス（別刷や会議プログラムなど）を義務付ける。 | 事務局で応募書類に不備がないかをチェックし、執行部でポイント化とポイントの総計を算出した。執行部会議を経て、研究科委員会で審議の上、選考結果を承認する。 |

| 研究科 | 2022年度選考総括 | | （参考）<br>教育研究上の目的 |
|---|---|---|---|
| | 選考方法（評価ポイント） | 選考体制 | |
| 生命科学 | 博士課程後期課程では、探求心をもって研究および開発に取り組み、生命科学と関連分野における新しい知見を見出し、新しい技術を生み出すことによって、人間の幸福と自然が調和した持続可能で豊かな社会の実現に貢献する研究者および技術者を育成することを目的とする。 | 本研究科の人材育成目的に即し、研究業績を重視して選考を行う。<br>研究業績についてはポイント化し、客観的にAとBの採用者を確定する。<br>また、できるだけ多くの院生に奨学金を支給できるようにするという方針から過年度の採択決定に至った研究業績については対象としない。 | 執行部会議、研究科委員会にて確認した選考基準に基づき、研究科長および大学院担当副学部長を中心とする執行部が採用原案を作成。研究業績の点数化を行う際には、申請者の指導教員、コース長に意見を求め、公平になるよう努める。<br>採用原案を執行部会議、研究科委員会で確認し、採用者を決定する。 |
| 先端総合学術 | 現代の諸科学分野に共有された主題群をプロジェクト研究によって追求することを通じて、新たな研究領域の創出を担う先端的で総合的な知の探求者、制作者としての研究者を養成することを目的とする。 | 教育研究上の人材育成目的に照らし合わせて、本人の申請書から論文数などから研究成果を評価、学会の発表数から研究成果を評価、今後の研究計画を評価、学振申請にトライしているかを評価し、それを総合的に評価し選考する。 | 教授会で各項目の点数化、選考方法を確認し、副研究科長による点数化、執行部で確認、点数上位からA給付、B給付案を教授会で審議し、決定。上回生ほど研究評価が高くなる傾向はあるが、現時点での選考方法としては適切である。 |
| 薬学 | 薬学の専門的知識と研究力を備え、使命感、倫理観を有する高度な薬剤師、医療人、研究者として、地域や社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。 | 申請者の研究業績内容に応じて業績毎にポイント化し、ポイントの総計、および学外奨学金の受給状況を考慮して選考を行う。対象となる業績は、学術雑誌等の論文・著書・総説、国際および国内学会・シンポジウム等における発表、特許・受賞歴である。 | 事務局で応募書類に不備がないかをチェックし、大学院担当副学部長を中心に執行部でポイント化とポイントの総計を算出し、執行部会議を経て、研究科委員会で審議の上、選考結果を承認する。 |
| 人間科学 | 心理学とその隣接領域の科学的、総合的知識に基づいて包括的に人間を理解し、理論と実践を相互還流させる高度な技能と対応力を身につけることで、人々のニーズや社会的要請を適切に捉えて、学術と社会の発展に貢献することができる人材を育成することを目的とする。<br>博士課程後期課程では、高度に専門的な研究能力と技能にもとづいて、心と行動に関する人類の知を拡大し、総合的、倫理的な視点から複雑な社会の問題の解決に貢献することができる人材の育成を目的とする。 | 申請者の研究業績内容に応じて業績毎にポイント化し、ポイントの総計で選考を行う。対象となる業績は、①研究論文②著書③その他学術刊行物への掲載や特許など④研究発表の4 項目とする。なお、ポイントは学年ごとに係数変更（D1×1、D2×1/2、D3×1/3）を行う。 | 事務局で応募書類に不備が無いかをチェックし、大学院副研究科長を中心に執行部でポイントの総計を算出し、執行部会議を経て、教授会にて選考結果を承認する。 |
| 食マネジメント | 食マネジメント研究科は、経済学・経営学の専門的知見を用いて、食に関わる経済活動を研究し、実践的なマネジメント能力を備えた高度専門職業人および研究者の育成を目的とする。<br>博士課程後期課程では、食マネジメント研究の発展に寄与する研究活動を行い、ここで培ったマネジメント能力を用いて研究成果を社会に還元するとともに、研究倫理を有しつつ学術的手法を用いることができる研究者を育成する。 | 本研究科の人材育成目的に照らして、研究状況、研究計画、学会発表や論文数などの研究業績を総合的に評価して選考する。 | 大学院運営委員会で原案を作成し、執行部会議、研究科委員会に諮り採用者を決定する。 |

## 博士課程後期課程学生学会奨学金

学会発表は、日本学術振興会特別研究員など、各種研究助成の申請に際しても考慮される重要な実績であり、学術的な経験を積む貴重な研鑽の場であると言えます。さらに、研究業績を蓄積し、修業年限で学位取得の水準まで到達する点においても、学会参加や発表は基幹的な活動の一つです。このため、学会への参加または学会での研究成果の発表を奨励し、援助することを目的としています。

### （１）支給額の上限および支給回数

【図表2-3　支給額】

| 種類 | 支給金額※ |
|---|---|
| 学会参加奨励(オンライン参加) | 5,000円 |
| 学会参加奨励(現地参加) | 10,000円 |
| 学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催) | 20,000円 |
| 学会発表奨励（国内現地発表） | 30,000円 |
| 学会発表奨励（国外現地発表） | 100,000円 |

※日本学術振興会特別研究員は除く。日本学術振興会特別研究員は、実際にかかった経費を大学院課にて計算し、支給金額を上限とした実費を支給。

奨学金の支給回数は、年次ごとに以下の回数制限を設けています。

【図表2-4　支給回数の上限】

<table>
<tr><td>学会参加奨励(オンライン参加)</td><td rowspan="2">年次1回まで</td><td rowspan="4">4種の奨学金からいずれか年次2回まで</td></tr>
<tr><td>学会参加奨励(現地参加)</td></tr>
<tr><td>学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催)</td><td rowspan="2">年次2回まで</td></tr>
<tr><td>学会発表奨励（国内現地発表）</td></tr>
<tr><td>学会発表奨励（国外現地発表）</td><td>年次2回まで</td><td>年次2回</td></tr>
</table>

（2）支給執行総額・支給件数

【図表2-5　学会参加奨励(オンライン参加) 給付件数】

| 研究科 | 補助件数 |
|---|---|
| 法学 | 2 |
| 経済学 | |
| 経営学 | |
| 社会学 | |
| 文学 | 1 |
| 理工学 | |
| 国際関係 | |
| 政策科学 | |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | |
| スポーツ健康科学 | |
| 情報理工学 | |
| 生命科学 | |
| 先端総合学術 | 3 |
| 薬学 | |
| 人間科学 | 1 |
| 食マネジメント | |
| 合計 | 7 |

【図表2-6　学会参加奨励(現地参加) 給付件数】

| 研究科 | 補助件数 |
|---|---|
| 法学 | 3 |
| 経済学 | 3 |
| 経営学 | 2 |
| 社会学 | 5 |
| 文学 | 13 |
| 理工学 | 2 |
| 国際関係 | 3 |
| 政策科学 | 2 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 1 |
| スポーツ健康科学 | 8 |
| 情報理工学 | 4 |
| 生命科学 | 2 |
| 先端総合学術 | 17 |
| 薬学 | 3 |
| 人間科学 | 16 |
| 食マネジメント | 4 |
| 合計 | 88 |

【図表2-7　学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催) 給付件数】

| 研究科 | 補助件数 |
|---|---|
| 法学 | |
| 経済学 | 3 |
| 経営学 | 2 |
| 社会学 | |
| 文学 | 10 |
| 理工学 | 2 |
| 国際関係 | 1 |
| 政策科学 | 1 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 4 |
| スポーツ健康科学 | |
| 情報理工学 | 2 |
| 生命科学 | |
| 先端総合学術 | 2 |
| 薬学 | 1 |
| 人間科学 | 5 |
| 食マネジメント | |
| 合計 | 33 |

【図表2-8　学会発表奨励（国内現地発表）執行総額・給付件数】

| 研究科 | 補助件数 |
|---|---|
| 法学 | 3 |
| 経済学 | 11 |
| 経営学 | 10 |
| 社会学 | 12 |
| 文学 | 24 |
| 理工学 | 33 |
| 国際関係 | 11 |
| 政策科学 | 2 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 8 |
| スポーツ健康科学 | 18 |
| 情報理工学 | 42 |
| 生命科学 | 16 |
| 先端総合学術 | 22 |
| 薬学 | 17 |
| 人間科学 | 30 |
| 食マネジメント | 7 |
| 合計 | 266 |

【図表2-9　学会発表奨励（国外現地発表）給付件数】

| 研究科 | 補助件数 |
|---|---|
| 法学 | |
| 経済学 | 5 |
| 経営学 | 3 |
| 社会学 | 1 |
| 文学 | 27 |
| 理工学 | 19 |
| 国際関係 | 7 |
| 政策科学 | 2 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 1 |
| スポーツ健康科学 | 10 |
| 情報理工学 | 19 |
| 生命科学 | 8 |
| 先端総合学術 | 11 |
| 薬学 | 9 |
| 人間科学 | 10 |
| 食マネジメント | 3 |
| 合計 | 135 |

## 博士課程後期課程学生学会奨学金

本奨学金は、本大学院博士課程後期課程相当（博士課程後期課程、一貫制博士課程（3回生以上）・4年制博士課程）に在学する優秀な学生の優れた研究計画に対して、その実現に向けた経済的な負担を軽減、ならびに在学中の学位取得に資する研究活動を促進することで、博士論文の早期完成に繋げ、標準修業年限内での修了を後押しするものです。

1件あたり10万円・30万円・50万円の3種類のいずれかを給付します。

【図表2-10　博士課程院生研究支援奨学究支援奨学金 支給額】

| 研究科 | 採択件数 | 10万円 | 30万円 | 50万円 |
|---|---|---|---|---|
| 法学研究科 | 1 | | 1 | |
| 経済学研究科 | 2 | | 2 | |
| 経営学研究科 | 1 | | | 1 |
| 社会学研究科 | 2 | 1 | | 1 |
| 文学研究科 | 8 | 1 | 2 | 5 |
| 理工学研究科 | 12 | | 1 | 11 |
| 国際関係研究科 | 3 | 1 | 2 | |
| 政策科学研究科 | 1 | | | 1 |
| テクノロジー・マネジメント研究科 | 3 | | | 3 |
| スポーツ健康科学研究科 | 3 | | 1 | 2 |
| 情報理工学研究科 | 9 | | 2 | 7 |
| 生命科学研究科 | 2 | | 2 | |
| 先端総合学術研究科 | 12 | | 4 | 8 |
| 薬学研究科 | 8 | | 4 | 4 |
| 人間科学研究科 | 10 | 3 | 3 | 4 |
| 合計 | 77 | 6 | 24 | 47 |

## 博士論文出版助成制度

本制度は、本学大学院博士課程後期課程の大学院生の博士論文の研究成果の公刊を助成促進するものです。専門分野における優れた研究業績を積極的に公表することを目的とし、本学大学院博士課程後期課程にて博士学位を授与された方々が、当該博士学位論文を出版する際、その経費の一部を助成します。

※人文系の研究科のみ対象

【図表2-11　博士論文出版助成制度　申請数・採択件数・執行予定額(※)】

| 研究科 | 申請件数 | 採択件数 | 執行予定総額（円）(※) |
|---|---|---|---|
| 法学研究科 | 2 | 2 | 1,200,000 |
| 経営学研究科 | 2 | 2 | 2,000,000 |
| 社会学研究科 | 3 | 3 | 2,994,510 |
| 国際関係研究科 | 2 | 2 | 1,200,000 |
| 政策科学研究科 | 1 | 1 | 600,000 |
| スポーツ健康科学研究科 | 1 | 1 | 600,000 |
| 先端総合学術研究科 | 6 | 6 | 5,200,000 |
| 人間科学研究科 | 3 | 3 | 2,600,000 |
| 合計 | 20 | 20 | 16,394,510 |

(※)本助成金の執行は博士論文の刊行後となるため、執行予定金額として記載しています。

## 3. 奨学金および研究助成制度（博士課程前期課程・後期課程共通）

### 研究会活動支援制度

研究会活動は、研究を通じた学びや交流、自身の研究を周知する機会となることはもちろん、研究者としてのプレゼンスを獲得することで、学会発表や論文執筆などの若手研究者に必要な業績・キャリアにつながる可能性があります。本制度は、本学の複数の研究科の大学院学生で構成される研究会に対して、年間30件を上限に研究会活動に必要な施設貸与や経費の支援（年間10万円）を行っています。

【図表３-1　研究会活動支援制度支援対象研究会】

| 研究会名 | 研究課題 | 研究会構成 |
|---|---|---|
| Public & Inclusion Research Project | 公共圏をテーマに質的社会調査を協同的に学び、修得する | 社研M2×2,先端M1×1,先端M2×1,先端D5×1,他大学M2×2,他大学B3×1,他大学B5×1, |
| マインドフルネス研究会 | マインドフルネスは逆輸入なのかー質的なアプローチから見る禅とマインドフルネス | MOTD3×1,人間D1×1,人間D3×4, |
| 移動・空間・時間 研究会 (いくじ研) | 日本語・中国語・韓国語・英語など、諸言語における移動表現と空間・時間認知について | 言語M2×1,他大学D1×1,他大学D3×1,文研D1×1,文研D2×1,文研D5×1, |
| 現象学研究会 | 現象学運動の解明 | 先端D3×1,先端他研修生×1,他大学M＊×1,文研D1×1,文研D3×1,文研M1×2,文研M2×1, |
| 社会運動論　研究会 | 社会運動とインターセクショナリティ | 社研D1×1,社研D3×1,先端D5×1,先端D6×1, |
| 独・仏現代哲学研究会 | フランス現代哲学におけるヘーゲル哲学（ドイツ哲学）の受容 | 先端M2×1,文研M3×1,文研D1×1,文研D3×1,文研M1×2,文学部B4×1, |
| 日本思想史研究会 | 日本思想史における「世相史」ー柳田国男『明治大正史　世相篇』を中心にー | 文研D1×2,文研D4×2,文研D5×1, |
| 文構造研究会 | 日本語の文構造を研究し、その知見を実際の作文指導などに役立てる | 言語M2×1,他大学D1×1,文研D1×2, |
| 明律研究会 | 元明時代の法制・宗教・社会の連続性 | 文研D5×1,文研M1×1,文研M2×1,文学部B4×1, |
| 立命館朝鮮近現代史研究会 | 朝鮮近現代史の諸問題の解明・研究の深化 | 文研D1×2,文研D4×1,文研M2×1,文研M3×1, |
| 「経済小説」研究会 | 「経済小説」作品を講読し、作品を通して日本の戦後社会史を再考する。 | 社研D3×1,先端M1×1,先端M2×3,先端D8×1, |
| Research Society of Digital Marketing and Regulation Policy | Digital marketing and regulation policy | 経営D2×1,政策D1×1,政策M1×1, |
| メディア心理学研究会 | SNS上のエンゲージメントの力：メディア心理学からのアプローチ | 経済M2×1,人間D1×1,人間D3×2,人間M1×3, |
| 現代東アジア映画研究会 | 現代東アジア映画の鑑賞を通じて、それぞれの国における文化・社会背景を理解する。 | 社研D1×1,先端M1×2,先端M2×1,先端D3×2,先端D6×1,先端D8×1, |
| 墓誌銘研究会 | 出土文字史料を用いた文献史料の補完と検証 | 社研M2×2,文研D3×2,文研D5×1, |
| 歴史社会学研究会 | 歴史社会学の方法論に関する議論を学ぶ | 社研D1×1,社研M1×1,先端M1×1, |
| 中東・イスラーム地域研究 院生研究会 ／ Graduate Student Society for Middle Eastern and Islamic Area Studies | 中東・イスラーム地域における政治・経済・社会研究のための方法論的検討を通じた実証研究の高度化 | MOTD4×1,他大学M2×1,他大学D1×1,他大学D2×1,国関D1×1,国関D2×1,国関M1×2,国関M2×2, |
| 原典講読会 | 歴史学、社会学等の原典を通じ、概念に対する内在的な接近と構造的理解を、学修・批判することを課す | 先端M1×1,文研D1×1,文研M1×1,文学部B4×1, |
| 古文用音声認識システム研究会 | 日本の古文用音声認識システムの構築と活用に関する研究 | 文研D2×1,文研D4×1,情理D5×1, |
| フェミニズム基礎研究会 | フェミニズムの基礎文献の講読を通して、現代の社会課題に対応できるような多様で複合的な視座を養成する。 | 先端M1×3,先端M2×1,文研M1×1, |

M…修士・博士課程前期課程・一貫制博士課程1・2年次・専門職学位課程　D…博士課程後期課程・4年制博士課程・一貫制博士課程3年次以上

【図表3-2 研究会活動支援制度執行総額】

| 費目 | 金額（円） |
|---|---|
| 消耗品 | 982,327 |
| 印刷費 | 117,910 |
| 旅費 | 188,639 |
| 講師謝礼・交通費 | 138,299 |
| 合計 | 1,427,175 |

## ベーススキル向上支援補助制度（CLA講座受講料補助）

本制度は、社会に出てから実践的な力を発揮するために必要となる基本的素養（ベーススキル）の確実な習得を奨励することを目的として、その向上を図るために、本学の言語習得センター（CLA）が実施する課外の各講座を受講する大学院生および大学院進学予定者に対して、受講料の一部を補助しています。

（1）補助対象講座および申請要件

【図表3-3 補助金申請要件一覧】

| 講座名 | 申請要件 |
|---|---|
| ・TOEIC□L&Rテスト対策講座 | ①プレイスメントテストを受験している。<br>または、受講する講座の初回講座日より1年以内にTOEIC® L&Rテスト（学内での団体受験（下記参照））を受験しており、そのスコア･レポートのコピーを提出できる。<br>②講座終了時のアチーブメントテストを受験している。 |
| ・TOEFL□テスト対策講座<br>（Listening&Reading コース、Speakingコース） | プレイスメントテストを受験している。または、受講する講座の初回講座日より1年以内にTOEFL ITP®テスト（学内での団体受験（下記参照））を受験しており、そのスコア･レポートのコピーを提出できる。<br>①講座開始以降に実施されるTOEFL ITP®テスト（学内での団体受験（下記参照））、または、TOEFL iBT®テスト（学外での受験）を受験しており、そのスコア･レポートのコピーを提出できる。<br>万が一、上記スコア・レポートのコピーを提出できない場合は、講座に8割以上したことが大学院課にて確認できれば、申請を認める。<br>講座開始後～提出期日までに団体受験TOEFL ITP®テスト、TOEFL iBT®テストが実施されない場合は、講座に8割以上の出席していなければ申請できない。 |
| ・TOEFL□テスト対策講座<br>（Writingコース） | ①受講する講座の初回講座日より1年以内にTOEFL ITP®テストを受験しており、そのスコア･レポートのコピーを提出できる。<br><br>②講座開始以降に実施されるTOEFL ITP®テスト（学内での団体受験（下記参照））、または、TOEFL iBT®テスト（学外での受験（下記参照））を受験しており、そのスコア･レポートのコピーを提出できる。<br>万が一、上記スコア・レポートのコピーを提出できない場合は、講座に8割以上したことが大学院課にて確認できれば、申請を認める。<br>※講座開始後～提出期日までに団体受験TOEFL ITP®テスト、TOEFL iBT®テストが実施されない場合は、講座に8割以上の出席していなければ申請できない。<br><br>③申請する講座の開講期間内で、メールにて5回全ての添削指導を受けたことが大学院課にて確認できる。 |
| ・IELTSテスト対策講座<br>（総合コース、Speakingコース） | 講座に8割以上出席したことが、大学院課にて確認できる。 |
| ・IELTSテスト対策講座<br>（Writing添削コース） | 申請する講座の開講期間内で、メールにて5回全ての添削指導を受けたことが大学院課にて確認できる。 |

## （２）2023年度執行総額・補助件数

【図表3-4　研究科・課程別補助件数】

| 研究科 | 計 | 研究科 | 計 |
|---|---|---|---|
| 法学 | 4 | 映像 | 1 |
| 経済学 | 6 | 情報理工学 | 8 |
| 経営学 | 5 | 生命科学 | 2 |
| 社会学 | 4 | 先端総合学術 | 6 |
| 文学 | 2 | 薬学 | 3 |
| 理工学 | 21 | 人間科学 | 7 |
| 国際関係 | 0 | 食マネジメント | 1 |
| 政策科学 | 5 | 法務 | 2 |
| 言語教育情報 | 0 | 経営管理 | 2 |
| ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ | 0 | 教職 | 0 |
| ｽﾎﾟｰﾂ健康科学 | 3 | 合計 | 82 |

【図表3-5　講座別補助件数・執行金額】

| 講座 | 補助件数 | 補助金額（円） |
|---|---|---|
| IELTS™テスト対策講座 | 20 | 706,000 |
| TOEFL□テスト対策講座 | 19 | 425,000 |
| TOEIC□L&Rテスト対策講座 | 43 | 1,634,000 |
| 合計 | 82 | 2,765,000 |

## 英語論文投稿支援制度

本制度は、本学大学院生の英語論文による研究成果の国際的な発信を促進することを目的に、英文ジャーナル(論文誌)・国際会議等へ投稿を行う際に必要となる校正費や投稿費を補助する制度です。
補助の回数は、年度1回。同一論文・同一申請者に限り、校正費と投稿費の併給を認め、最大8万円を助成します。

【図表14-6　補助の上限】

| 種類 | 補助額の上限 |
|---|---|
| 英語論文校正費 | 50,000円 |
| 英語論文投稿費 | 50,000円 |

【図表14-7　補助件数および補助金額の合計】

| 種類 | 補助件数 | 補助金額（円） |
|---|---|---|
| 英語論文校正費 | 77 | 1,979,302 |
| 英語論文投稿費 | 56 | 2,487,533 |
| 合計 | 133 | 4,466,835 |

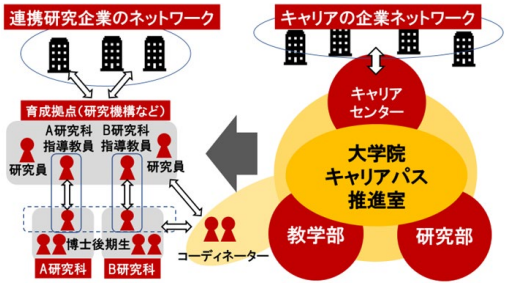
## 4. 立命館大学NEXT（New Educational Xross-Training)フェローシップ・プログラム

立命館大学では、R2030チャレンジ・デザインにおいて「新たな価値を創造する次世代研究大学」と「イノベーション・創発性人材を生み出す大学」を目指すべき姿として掲げています。これを実現するためには、博士後期課程への進学者の増加が不可欠であるとともに、深い専門性と学際的な視点に加えて、社会実装能力をもった高度専門人財を組織的に育成する必要があります。

このような状況の下、2021年度に文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の採択を受けました（採択期間は2027年度まで）。本事業は、本学の研究拠点において、優秀で意欲の高い博士後期課程の大学院生を「立命館大学NEXT フェローシップ生」として受け入れ、先端的な研究を行う多様な分野の研究人財と協働しながら研究活動に従事することで、自らの専門性を深めながら幅広い視点を獲得することを目指すプログラムを実施です。フェローシップ生は、各研究拠点が社会・地域・企業等と連携する研究プロジェクトを通じ、社会課題や地域課題の解決に専門知を応用する方法を学ぶことで、社会実装能力の涵養も図ります。

### プログラム概要

（1）募集対象学生
本学博士課程後期課程1回生
（一貫制博士課程は博士課程第3年次相当、4年制博士課程は第2年次相当）
（2）人数
毎年度15名
（3）採用期間
博士課程後期課程在学中3年間
（4）支援金・研究費
①研究専念支援金　月額180,000円（年額216万円）（課税対象）
②研究費　　年額34万円（上限）
（5）義務
①標準修業年限内に修了すること。
②学内外の研究拠点等における研究プロジェクトに積極的に参加し、研究業績を創出すること。
③大学院キャリアパス推進室やコーディネーターが指定する研修企画（キャリア形成関連を含む）等に積極的に参加すること。
④研究倫理教育を受講し、受講証明書を提出すること。
⑤コンプライアンス教育を受講し、誓約書を提出すること。
⑥以下の書類を定められた期日までに提出すること。
a.年度当初の研究計画書、b.研究業績報告書、c.半期の研究進捗状況報告書、d.年度末の研究業績報告書
⑦年度末の継続審査（大学院キャリアパス推進室実施）を受審すること。



## 支援の特徴

フェローシップ生に対しては、経済的な支援に加えて、専用のセミナーの実施やコーディネーターの配置など、大学院キャリアパス推進室が全面バックアップして、手厚い支援を行いました。特徴的な支援は以下の通りです。

（1）vitaeRDFワークショップ
研究者に必要な能力や資質について、Vitae*が開発したRDF（Researcher Development Framework）にある67項目を5段階のルーブリック評価（国際的指標）を用いて、自らの現状を可視化し、今後の成長に向けたアクションプランを立てることを目的に、ワークショップを行いました。
ワークショップでは、RDFの指標や活用する目的および背景を学ぶとともに、自身の強みや弱みについて認識したうえで、フェローシップ生同士でディスカッションを行いました。また、今後1年間で、どのような能力を身につけるのか、達成に向けたアクションプランを立て、お互いに宣言を行いました。2回のグループワークを通じて、それぞれの共通点や違いに気づくきっかけにもなり、フェローシップ生同士で理解を深めることができました。また、その後のコーディネーターとの面談で活用しました。
なお、アクションプランの達成状況については、年度末に各人が振り返りを行い、それを踏まえた次年度の計画を提出しました。フェローシップ生は、研究活動や様々な企画等への参加を通じ、いずれの項目においても成長がみられました。

*Vitaeは英国の非営利の全国的ネットワーク組織です。高等教育機関、研究機関の博士研究者や研究スタッフ、博士課程に在籍する大学院生の自己啓発、専門的能力開発及びキャリア開発の支援を行っています。RDFは、イギリスやオーストラリアなどの大学では、教員・PDなど若手研究者の成長を促すために導入されています。

（2）プロジェクトゼミナール「SDGs課題の解決策を考える」
PBL（Project-based Learning）を通じて養う、主体性やリーダーシップ、コミュニケーション能力、課題設定・解決力などのスキルを獲得することを目的に、プロジェクトゼミナール「SDGs課題の解決策を考える」を実施しました。
このゼミナールに参加したフェローシップ生は、グループ内の活動に積極的にかかわり、大きな役割を果たしていました。

（3）専用のコーディネーターの配置
企業出身のコーディネーターを雇用し、フェローシップ生に対して、採用時と秋学期開始時の年2回面談し、一人一人の状況の確認と、特にキャリア形成に対する支援を行っています。また、フェローシップ生の受入教員との面談も実施し、フェローシッププログラムに対する理解や、今後の指導の進め方等について、懇談を行っています。

（4）フェローシップ生同士の交流
セミナー等への参加を通じた交流に加え、気軽な交流を目的とした企画を、月1回のペースで実施（参加は自由）しています。交流会では、日常の研究活動に関する相談や修了後のキャリアに関する意見・情報交換など、トピックも様々に、気軽に参加してもらいながら、交流を深めています。孤独になりがちな研究生活を支える場になるだけでなく、共同研究につながるケースもあり、参加するフェローシップ生にとっても実り多い時間になっています。

## 2023年度採用者の学年別･所属研究科別一覧

| 拠点名 | 人数 | 採択された院生の所属研究科 |
|---|---|---|
| アート・リサーチセンター | 1 | 文学 |
| 間文化現象学研究センター | 1 | 文学 |
| ゲーム研究センター | 1 | 先端総合学術 |
| 食総合研究所・スポーツ健康科学総合研究所 | 2 | スポーツ健康科学1名、食マネジメント1名 |
| 生存学研究所 | 1 | 先端総合学術 |
| 高齢者社会を豊かにする視覚3C 創成プロジェクト | 1 | 生命科学 |
| 時空間制御材料研究拠点・学術変革領域研究「高密度共役」 | 1 | 生命科学 |
| 人間科学研究所・生存学研究所・ものづくり質的研究センター・デザイン科学研究センター | 1 | 人間科学 |
| 先端 ICT メディカル・ヘルスケア研究センター | 1 | 情報理工学 |
| 先端材料研究センター・ロボティクス研究センター | 1 | 生命科学 |
| 創薬科学技術研究センター | 1 | 薬学 |
| 東アジア平和協力研究センター | 1 | 国際関係 |
| なし | 3 | 社会学1名、文学1名、薬学1名 |

（年度途中での辞退者、年度途中での繰上採用者含む）

## 5. 立命館先進研究アカデミー次世代研究者育成プログラム

### プログラム概要

「新たな価値を創造する次世代研究大学」と「イノベーション・創発性人材を生み出す大学」の実現に向けた中核構想として、『Ritsumeikan Knowledge Nodes（RKN）』があります。Nodesとは結合点を意味し、海外の大学・研究機関等との継続的なパートナーシップの構築し、国際的なネットワークにおいて本大学が重要かつユニークな知のNodesの役割を果たすことを通じて、世界水準の研究・教育が展開していくことを目指しています。

その具体的施策として、立命館大学はRARA（立命館先進研究アカデミー、Ritsumeikan Advanced Research Academy）を設置し、大学院生を含む若手研究者から本大学を牽引する中核研究者までの研究者のキャリアパスに応じた研究環境の抜本的充実を図ることとしました。本プログラムは、本大学中核研究者の指導を受ける博士後期課程学生のうち、特に優秀な学生をRARA 学生フェローとして選抜・認定を行った上で、育成支援を行うプログラムです。RARA 学生フェローとして選抜された博士後期課程学生には、個々の研究力を向上させ、分野の異なる国内外の研究者との交流を通じて、国際性と学際性、さらに複眼的視野を兼ね備えた国際社会で活躍できる資質と能力を備えた博士人材へと成長していくことを期待しています。

なお、本プログラムは、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の採択を受け、2021年度より実施・運営するものです。

### 支援の特徴

（1）RARAコロキアム

博士後期課程学生が異分野の研究者とともに交流を通じて、高い研究力はもちろんのこと、学内外の優れた研究者と自由闊達な議論が展開できるコミュニティとしての機能を重視し、研究者としての職能開発プログラムに加えて他者との関りの中で複眼的/国際的視野を獲得し、アカデミアや産業界といった多様なキャリアにおいて有用なスキルをトレーニングするプログラムを提供しています。

2023年度は、新規採択したRARA学生フェローを対象に、学生同士が気軽に話し合える環境を構築するためのコミュニケーション講義を開催するとともに、全てのRARA学生フェローを対象に、トランスファラブルスキルの獲得や博士号取得後の進路選択の検討などを目的としたRARAコロキアム連続講義を開催しました。また、NEXT学生フェローと合同で、VitaeRDFの活用方法に関わるワークショップを開催しました。

（2）RARAコモンズ

研究者の成果発信の場として、学内外の研究者や企業関係者等とのネットワークの構築と自身のプレゼンテーションスキルの向上を目的として、研究成果を積極的に発表する機会を提供しています。

2023年度は、立命館の附属校・提携校をはじめとした7つの中学校・高等学校に対し、延べ12日間にわたって、研究発表と交流の場「ライスボールセミナー」を開催しました。これらにおいて延べ24名のRARA学生フェローが登壇し、延べ1,511人の生徒が聴講しました。

（3）その他学外機関との連携

産総研デザインスクールなど国内外の研究機関等が主宰するプログラムへの参加機会の提供、国内外を問わず、企業等が実施するインターンシップへの参加支援など、様々な支援策を提供しています。

①海外イマージョン・プログラム

自身の研究テーマに関連し、自身の能力を海外で試す機会や知見を広げるための企画等に対して経済面での支援をしています。2023年度は22名の学生フェローの国際会議での発表、短期留学による国際共同研究やフィールドワークなどの研究活動を支援することができました。

②インターンシップ

RARA学生フェローを対象とした株式会社かんぽ生命保険における本社研修を2日間の日程で開催し、3名が参加しました。生命保険の仕組みや資産運用などの講義を始め、運用部門やデジタル部門の紹介、ESG投資に係るワークなどを行うとともに、昼食会や懇親会などの機会を通じた同社職員との交流も行われました。

③Creative Leadership研修

国立研究開発法人産業技術総合研究所が運営するデザインスクールでも取り入れている研修で、デンマークのビジネススクールであるKaos Pilotの講師により進められるCreative Leadership研修に、RARA学生フェローを派遣しています。2023年度は、リーダーとして大事にしたいことは何か、不確実な状況でも機能するリーダーシップのとり方を明らかにしたうえで、他者との信頼関係の築き方、創造的なコラボレーションなどを学ぶことができる本研修に、1名のRARA学生フェローが参加しました。

## 博士後期課程学生と指導教員が一体として参画

| RARA コロキアム（研鑽の場） | RARA コモンズ（成果発信の場） | 研究時間確保、研究費 |
|---|---|---|
| メンターによる育成、学際分野研究<br>・英語論文ライティング | 成果発信、ネットワーク構築<br>・ネットワーク<br>・海外派遣 | **博士後期**<br>**→ 本プログラムで支援**<br>**指導教員**<br>**→ 大学独自予算で支援**<br>・インターンシップ |

### 既存の取組み

- 各種キャリアセミナーの提供
- 博士&企業マッチングセミナー、メンター派遣
- 研究拠点と企業等の共同研究・連携プロジェクト参加
- 研究発表の機会提供、修了後学内ポストの提供

**指導教員**（RARA フェロー）　**博士後期課程学生**（RARA 学生フェロー）

一定の研究水準を持った研究者が対象となるフェローを推薦するとともに、自身も参画を行う。

## 2023年度採用者の学年別・所属研究科別一覧

| 所属 | D1 | D2 | D3 | D4 | 実績 |
|---|---|---|---|---|---|
| 法学研究科 | | | | | 0 |
| 経済学研究科 | | | | | |
| 経営学研究科 | 1 | 2 | | | 3 |
| 社会学研究科 | | | 2 | | 2 |
| 文学研究科 | 1 | 1 | （※2） 1 | | 3 |
| 理工学研究科 | 1 | 6 | （※2） 1 | | 8 |
| 国際関係研究科 | 1 | | 1 | | 2 |
| 政策科学研究科 | | | | | |
| テクノロジー・マネジメント研究科 | | 1 | | | 1 |
| スポーツ健康科学研究科 | （※1） 6 | 3 | | | 9 |
| 情報理工学研究科 | 2 | 1 | 3 | | 6 |
| 生命科学研究科 | 1 | | 1 | | 2 |
| 先端総合学術研究科 | | 1 | 1 | | 2 |
| 薬学研究科 | 1 | | 3 | 1 | 5 |
| 人間科学研究科 | 1 | 2 | 1 | | 4 |
| 食マネジメント研究科 | | | | | |
| 合計 | 15 | 17 | 14 | 1 | （※3） 47 |

※1 スポーツ健康科学研究科D1学生2名は2023年10月から支援開始
※2 文学研究科D3学生1名と理工学研究科D3学生1名は2023年9月で支援終了
※3 RARA学生フェローの定員は45名

## 6. ティーチング・アシスタント（TA）制度

### 概要

ティーチング・アシスタント（以下、TA）制度とは、大学が大学院生をTA として採用し、授業において教育補助を行う制度です。これにより、本学の教育の質を高めることができるのみならず、TA となった大学院生にとっても、自身の教育力・指導力・コミュニケーション力などを高める有効な機会となります。大学院生は、TAとして活動することで、研究者・大学教員等の進路に限らず、広く社会人としての飛躍を志向するにあたり意義深い経験ができます。

### TA従事者数

【図表6-1　2022年度TA従事者数】

| 研究科 | 修士・博士前期 | 博士後期 | 博士課程※ | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 法学研究科 | 11 | 4 | - | 15 |
| 経済学研究科 | 28 | 9 | - | 37 |
| 経営学研究科 | 24 | 9 | - | 33 |
| 社会学研究科 | 24 | 14 | - | 38 |
| 文学研究科 | 63 | 35 | - | 98 |
| 理工学研究科 | 433 | 12 | - | 445 |
| 国際関係研究科 | 14 | 14 | - | 28 |
| 政策科学研究科 | 13 | 3 | - | 16 |
| 言語教育情報研究科 | 11 | - | - | 11 |
| テクノロジー・マネジメント研究科 | 6 | 4 | - | 10 |
| スポーツ健康科学研究科 | 13 | 7 | - | 20 |
| 映像研究科 | 2 | - | - | 2 |
| 情報理工学研究科 | 251 | 14 | - | 265 |
| 生命科学研究科 | 233 | 4 | - | 237 |
| 先端総合学術研究科 | - | - | 14 | 14 |
| 薬学研究科 | 51 | 3 | 1 | 55 |
| 人間科学研究科 | 33 | 13 | - | 46 |
| 法務研究科 | 1 | - | - | 1 |
| 経営管理研究科 | 9 | - | - | 9 |
| 教職研究科 | 0 | - | - | 0 |
| 合計 | 1,232 | 148 | 15 | 1,395 |

### TA研修制度

例年、TA業務に必要な情報の説明やTA業務を考えるワークショップなどを実施しています。

【図表17-2　2022年度実施TA研修会】（参考）

| ガイダンス・研修 | 内容 |
|---|---|
| TA manaba+R・ICカードリーダー研修 | 本学の授業支援ツールであるICカードリーダーおよびmanaba+Rの操作方法を学ぶ。<br>各ツールの操作を行いながら、機能概要や利用方法などを実践的に学び、TAとして担当する授業の効果的な運営がサポートできることを目指す。 |
| TAハラスメント防止研修 | ハラスメントの基礎的な知識から、それを防止するための方策を学ぶ。 |
| TAスキルアップ研修 | TA経験を振り返り、TAをする上で困ったことや悩み、その解決方法などを共有し、実例に応じた対処方法を学ぶ。グループワークやディスカッションを行うことで、より具体的な解決策を見出せるようにするとともに、TA間のネットワークを形成する。 |

## 7．リサーチアシスタント（RA）、教学リサーチアシスタント（教学RA）、初任研究員、初任助教

### リサーチアシスタント（RA）

（1）概要

本大学または他大学の大学院博士課程後期課程の正規課程に在学する者（前期課程と後期課程の区分を設けない博士課程の正規課程の３回生以上に在学する者を含む。）で、本学の各研究機構において研究プロジェクト、共同研究、受託研究等に従事する者に対して支援する制度です。

（2）雇用実績

【図表7-1　2023年度リサーチアシスタント雇用状況】

| 所属 | 日本人 | 留学生 | 総数 |
|---|---|---|---|
| 経済学研究科 | 3 | 1 | 4 |
| 社会学研究科 | 2 | 0 | 2 |
| 文学研究科 | 6 | 1 | 7 |
| 理工学研究科 | 6 | 5 | 11 |
| 国際関係研究科 | 5 | 2 | 7 |
| 政策科学研究科 | 2 | 3 | 5 |
| テクノロジー・マネジメント研究科 | 0 | 1 | 1 |
| スポーツ健康科学研究科 | 2 | 0 | 2 |
| 情報理工学研究科 | 10 | 14 | 24 |
| 生命科学研究科 | 0 | 0 | 0 |
| 先端総合学術研究科 | 3 | 0 | 3 |
| 薬学研究科 | 2 | 0 | 2 |
| 人間科学研究科 | 2 | 3 | 5 |
| 合計 | 43 | 30 | 73 |

### 教学リサーチアシスタント（教学RA）

（1）概要

大学院高度化政策予算による施策の一環として、以下を目的に、2018年4月から運用を開始しました。
①研究プロジェクト、共同研究、受託研究等に従事することにより、博士課程後期課程院生の研究力の向上や、研究成果の創出につなげ、国内外の教育・研究機関、企業(研究職)等で活躍できる若手研究者の育成を目指す
②経済的に支援することによって、研究に専念できる環境をつくる
③RAの増加により、本学教員の幅広い基盤研究を充実させ、研究成果の創出促進を追求する

（2）対象

立命館大学研究職員規程第3条第4項に規定されているもののうち、下記の本学大学院の各研究科博士課程後期課程もしくは4年制博士課程在学者で、在学年数が標準就業年数を超えていない者。
・理工学研究科
・情報理工学研究科
・生命科学研究科
・薬学研究科
・スポーツ健康科学研究科

（3）雇用実績

【図表7-2　2023年度教学リサーチアシスタント雇用状況】

| 研究科 | 総計 |
|---|---|
| 理工学 | 23 |
| スポーツ健康科学 | 0 |
| 情報理工学 | 22 |
| 生命科学 | 6 |
| 薬学 | 6 |
| 合計 | 57 |

## 初任研究員、初任助教

若手研究者の育成制度についての学内整理（教学部の「初任研究員、初任助教制度」を研究部「専門研究員プログラム」へ一本化）を踏まえ、2023年度からは、初任助教での雇用者はおらず、初任研究員のみとなりました。両制度ともに2024年度以降は規程含めて廃止することとなったため、ここでは「初任研究員」としての雇用実績についてのみ記載します。

（1）概要

本学理系4研究科にて博士号を取得後、早期に、国内外のカデミックポジションでの活躍に向けた環境の充実を図るとともに、若手人材の多様な分野における基盤的研究を充実させ、研究成果の創出を促進し、同時に教育経験を有することを目的とします。

募集は、理工学部・情報理工学部・生命科学部・薬学部がそれぞれ行い、毎年度の募集定員は各1名です。

（2）対象

アカデミック・キャリア（国内外の大学・研究機関、企業（研究職）等への就職）を志向し、そのための進路を得る活動をしている者で、次の①・②の要件をすべて満たす者

①2021年度内に本大学博士課程・博士後期課程を修了した者、または2022年9月25日に博士課程・博士後期課程を修了した者（ただし、過去に初任研究員に応募した者を除く。）

②本大学受入教員の推薦・受入承認を得ている者

（3）雇用実績

【図表7-3　2023年度初任助教雇用状況】

| 所属 | 総計 |
|---|---|
| 文学部 | 2 |
| 合計 | 2 |

（4）進路

2023年度に雇用した2名の初任研究員は、1名は本学専門研究員、もう1名は海外の大学教員に採用されました。

## 8．キャリアマネジメントセミナー・スキルアップ講座

### 概要

（１）目的

①大学院修了に向けて、早期からキャリア形成を図る
②社会で活躍するために必要な力、スキルを身につける

（２）対象者

博士課程前期・後期課程学生

（３）日時・テーマ

過年度同様にzoomでの開催を基本とし、また、「博士人材育成コンソーシアム」の大学院生にも開放した結果、広い層の受講者となりました。

【図表 テーマ・講師およびのべ受講者数】

| 実施日 | テーマ | 講師（役職名等は2022年度） | 前期課程 | 後期課程 | 他大学※ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 5月12日 | だれもが必要リーダーシップ | 板倉　朋宏氏(大学院キャリアパス推進室 コーディネーター) | 4 | 8 | | 12 |
| 5月19日 | 折れない心の作り方 | 近藤　竜彦氏(名古屋大学生命農学研究科講師/レジリエンストレーナー) | 2 | 13 | 1 | 16 |
| 5月22日 | アカデミックキャリアの見つけ方 | 今村　比呂志氏(長浜バイオ大学助教) | | 13 | 2 | 15 |
| 5月31日 | 企業の種類と分析 | 樋口　直樹氏（ 立命館大学客員教授） | 1 | 2 | 1 | 4 |
| 6月9日 | 知的財産って私にも関係あるの？ | 吉川　万美氏（オクターヴBC株式会社（知的財産専門コンサルティング会社）代表取締役） | 3 | 4 | 1 | 8 |
| 6月16日 | 未来を生き抜くために必要なこと | 黒瀬　翼氏(株式会社AGARU　代表取締役) | 3 | 17 | | 20 |
| 6月23日 | 大学院生のためのキラッと輝くエントリーシート | 板倉　朋宏氏(大学院キャリアパス推進室 コーディネーター) | 6 | 6 | | 12 |
| 9月22日 | 2時間でプレゼンが得意になるセミナー | 板倉朋宏氏・中園直子氏（大学院キャリアパス推進室コーディネーター） | 2 | 3 | 2 | 7 |

## ９．プロジェクトゼミナール

PBL（課題解決型学習）を通じて養う、主体性やリーダーシップ、コミュニケーション能力、課題設定・解決力などのスキルを獲得することを目的に、プロジェクトゼミナール「SDGs課題の解決策を考える」を実施しました。このゼミナールは、2021年度にNEXTフェローシッププログラム生を対象に行った経験をもとに、対象を全大学院生に広げて実施しましたが、2022年度実施担当者の変更や受講者数を踏まえ、個人ワークを中心としたプログラムとしました。

### １）開催日時、場所、実施概要

| 日時 | 実施場所 | 概要 | 詳細 |
|---|---|---|---|
| 第１回<br>10/19（木）<br>16：20～17：50 | BKC<br>アドセミナリオ<br>A313 | キックオフ<br>1回目、分析について | ・本ゼミの目的について。<br>・課題の説明。<br>・課題の考え方と進め方について。<br>・評価について。<br>・分析についての説明。 |
| 第２回<br>11/2（木）<br>16：20～17：50 | BKC<br>ＢＫＣアクロスラウンジ　Ｂエリア | 分析の発表とビジネスの価値の洗い出しについて | ・分析の個人発表と質疑<br>・ビジネスの価値の考え方について |
| 第３回<br>11/16（木）<br>16：20～17：50 | BKC<br>ＢＫＣアクロスラウンジ　Ｂエリア | 価値の発表と顧客像について | ・ビジネスの価値の個人発表と質疑<br>・顧客像の考え方について |
| 第４回<br>11/23（祝）<br>16：20～17：50 | BKC<br>ＢＫＣアクロスラウンジ　Ｂエリア | 顧客像の発表と4P決定 | ・顧客像の発表と質疑<br>・4Pの考え方について |
| 第５回<br>12/14（木）<br>16：20～17：50 | BKC<br>ＢＫＣアクロスラウンジ　Ｂエリア | 最終発表会 | ・一人１０分でプレゼンテーションを実施し質疑を受ける。<br>（小林製薬様4名から質疑） |

### ２）参加者研究科

経済学研究科　　M1　1名
食マネジメント研究科　　D1　1名
生命科学研究科　　D1　1名
薬学研究科　　D1　2名
合計　5名（内NEXT学生4名）
参考：2022年度13名（内NEXT学生7名）

## 10. 博士と企業のマッチングセミナー

博士課程後期課程学生に対するキャリア支援として、2019年度のプレ実施を含め、4回目の「博士と企業のマッチングセミナー」をオンラインにより開催しました。

### 概要

１）目的
企業への就職をめざす博士後期課程大学院生を対象に、学生と企業の双方が交流する機会を提供し、就職への道筋をつけること。

２）日時
事前指導①　　8月3日（木）16：20～17：50
事前指導②　　9月13日（水）13：00～
※上記事前指導では大学院キャリアパス推進室コーディネーターから参加大学院生へ、企業に対する自己PRの方法や事前に企業担当者に視聴いただく動画の作成方法のアドバイスを行いました。
博士と企業との交流会　9月29日（金）12:30 ～ 17:25

３）対象
博士課程後期課程の大学院生 ※他大学院生も含む

４）当日のスケジュール

| 時間 | 内容 |
|---|---|
| 12：30 | 開会挨拶　、事務局から当日の流れについて説明 |
| 12:35 ～13:00 | 企業紹介プレゼンテーション |
| 13:05 ～14：55 | 個別懇談①　20 分×4 クール |
| 14:55 ～15：05 | 休憩 |
| 15:05 ～15：30 | 企業紹介プレゼンテーション |
| 15:35 ～17：25 | 個別懇談②　20 分×4 クール |

・各個別懇第（4クールを除く）のグループは、事前に聴取した学生・企業の希望に基づき、事務局が割当。

５）参加学生・企業
〔学生〕立命館大学　10名（文学研究科1名、国際関係研究科1名、先端総合学術研究科1名、食マネジメント研究科1名、理工学研究科1名、生命科学研究科3名、薬学研究科2名）
　　他大学学生　3名（京都工芸繊維大学1名、同志社大学１名、関西学院大学1名）

〔企業〕アース製薬株式会社、株式会社イシダ、京セラ株式会社、小林製薬株式会社、国立研究開発法人産業技術総合研究所、株式会社SCREEN ホールディングス、住友ファーマ株式会社、セイコーエプソン株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社知能情報システム、株式会社テルモ、とめ研究所、株式会社日本入試センター、パナソニックホールディングス株式会社、三菱電機株式会社、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、ヤンマーホールディングス株式会社（50音順）

## マッチングセミナーを終えて

参加者数は2022年度（他大学含めて20名）より減ることとなりました。
　実施後のアンケートでは大学院生、企業から基本的に好評を得ることができましたが、個別に以下の今後への期待を含むコメントもいただいており、更に改善に取り組む余地があると受け止めています。

【大学院生意見（要約）】
○企業の方が多忙もあってか、参加大学院生の自己紹介動画を未視聴の場合もありました。大学院生・企業双方で事前にギャップを埋める努力を重ねていると、より濃厚な懇談が行えるようになると思いました。また、今後は、参加される企業数を増やしていただけることを期待しています。
○企業側からは自身の研究内容に触れられないこともあり、また、こちらから一方的に質問するのみだった。正直、1～3クール目は企業が自己PR動画/資料を事前に見て、分野が合致している部門/課の紹介くらいはあるのかと期待していた。
○企業との懇談の時間が企業紹介と企業への質問に費やすことが多く、「マッチング」にはあともう少しと感じた。

【企業側意見（要約）】
○予想よりも参加人数が少なかったため、マッチング確率を上げるためにも、次回はより多くの大学院生の参加を期待しています。
○懇談に来た大学院生が自社との懇談を希望していなかったケースがあったため、都度の懇談の進め方に工夫が必要であった。
○大学院生の研究分野の紹介だけでなく、自己PR動画も事前に用意されていたことで、人柄や将来のキャリアなどがより具体的に把握することができ、懇談が進めやすかった。

## 11．京都クオリアフォーラム

京都クオリアフォーラムは、京都に根ざす大学と企業が互いの垣根を越えた交流を通して“「知」の共鳴場”を実現すること、そこから新たなイノベーションを創出し、社会実装を通して日本の科学技術、産業界に貢献して、世界をリードする人材を輩出する事を目的として、2021年5月に設立されました。京都・奈良の企業8社と本学を含む7大学が参画しています。

このフォーラムでは、企業と大学による共同研究や企業技術者と大学研究者が活発に交流する場を作り、広い見識と実現力を持ち、将来の日本をリードする人材を育成する活動を推進しています。

京都クオリアフォーラムウエブサイト　https://kyoto-qualia-forum.jp/

2023年度は、加盟大学・企業にて、博士に対する期待や現状を本音で語り合い、博士後期課程学生を京都で盛り上げるための会議、「博士キャリアメッセKYOTO」を開催しました。

7月10日に本学を主会場（ハイブリッド開催）として開催した「第1部　博士学生への期待とキャリアを考える」では、社会で活躍する研究者・技術者のプレゼンテーションを中心に、博士への期待と現状について議論しました。

また、11月1日に開催した「第2部　博士学生を知る」（京都工芸繊維大学でハイブリッド開催）では、全体で50名（本学からは5名が参加）の博士課程学生が自身の研究発表と質疑応答を行いました。発表者に対しては、参画している企業からの企業賞とともに、聴衆全員の投票によるベストインパクト賞が選出されました。終了後には、発表学生同士の交流会があり、懇談を通じて、研究交流や自身のキャリアを考える機会となりました。

## 12．立命館大学大学院リサーチプロポーザルコンテスト

大学院キャリアパス推進室では、2013年度より大学院生の研究構想力の向上、自身の研究内容や専門知識を広く社会に伝える力を養う、および汎用的な文章力の向上を目的として「立命館大学大学院リサーチプロポーザルコンテスト」を開催しています。2019年度からは、院生の研究発表の場に繋がるように工夫し、受賞者にはライスボールセミナーにおいて研究発表する場を設けて開催しました。

### コンテスト概要

（1）募集概要
①応募資格　応募締切日現在、本学大学院に在学する大学院生
②募集分野　文系、理系

（2）応募について
①応募に関して
・応募は1人1件とする
・応募者本人が作成したものに限る

②作成要領
・応募書類は、本コンテスト所定の様式を使用すること。様式の変更、所定様式以外の用紙の追加は認めない。
・応募書類は、パソコンで作成することとし、本文のフォントサイズは10.5ポイントとする。
・使用言語は日本語または英語とする。
・図表等を用いて、必ずしも専門や前提知識を共有しない読者を想定して記述すること。略語は使用しない。
・コンテスト応募後、加筆修正して次年度の学振特別研究員や学外機関の研究助成に積極的に応募することを推奨する。
・これまでの研究経過および研究成果に関して、研究倫理にもとる重大な虚偽が発見された場合は、「立命館大学学生懲戒規程」にもとづき厳しく対処する。

（3）審査について
①審査体制
大学院キャリアパス推進室委員で審査委員会を構成し、審査を行う。なお、応募者全員に審査講評を送付する。
審査委員長　荒木副室長
審査委員　　高橋副室長、岡田副室長、毛利副室長、藤田副室長、中川運営委員

②審査基準
以下（1）～（7）の審査項目について、審査基準 ①論旨・形式の一貫性 ②分かりやすさ③知的な示唆 ④研究計画・提案の魅力 ⑤研究遂行能力の観点から審査を行う。

（1）研究の概要図
概要図が、プロポーザルの要点を押さえ、分かりやすく、かつ魅力的に作成されているかについて評価する。
（2）研究の背景
研究の背景について、これまでの研究状況を踏まえ、参考文献を挙げながら説明できているか、論旨形式に一貫性があるかについて評価する。
（3）研究の目的・内容
研究の目的が具体的かつ明確に示されているか、研究目的を達成するための方法、計画が練られたものになっているか、論旨・形式に一貫性があるか、知的な示唆に富んでいるかについて評価する。

（4）研究の特色・独創的な点
研究課題を設定する視点に特色や独創性が認められるか、研究が完成したときに予想されるインパクトおよび将来の見通しがあるか、論旨・形式に一貫性があるか、知的な示唆に富んでいるかについて評価する
（5）研究計画
課程、回生を踏まえつつ、現在から課程を修了するまでの研究計画について評価する。
（6）研究遂行能力
課程、回生を踏まえつつ、研究課題の実行可能性を説明する上の根拠について評価する。
（7）研究者を志望する動機、目指す研究者像、アピールポイント等
研究者を志望する動機、目指す研究者像、アピールポイント等を評価する。

③賞について
大賞　　各分野1名　計2名（賞状、副賞Amazonギフト券5万円分）
優秀賞　文系2名 理系2名　計4名（賞状、副賞Amazonギフト券3万円分）
敢闘賞　文系2名 理系3名　計5名（賞状）

## 審査結果

【大賞】

| 分野 | 所属 | 研究テーマ |
|---|---|---|
| 文系 | 社会学研究科（D） | 母子家庭支援をめぐる規範意識の研究:フェミニズム視点からの政治言説分析 |
| 理系 | 情報理工学研究科（D） | 生活支援ロボットの行動計画のための大規模言語モデルと場所概念モデルの活用 |

【優秀賞】

| 分野 | 所属 | 研究テーマ |
|---|---|---|
| 文系 | 人間科学研究科（D） | エンゲージメントに関する心理学的研究-従業員、経営者、投資家の視点 |
| 文系 | 先端総合学術研究科（D） | クリエイティブ労働による職業生活の形成と継続に関する社会学的研究-プロバンドマンを事例に |
| 理系 | 情報理工学研究科（D） | Estimating Glioma Grading using a multi-task deep learning model with IDH genotype self-prompt |

【敢闘賞】

| 分野 | 所属 | 研究テーマ |
|---|---|---|
| 文系 | 経営学研究科（D） | 大企業におけるイノベーションの担い手の存立要件とその機能を活用した社会 イノベーション誘発の仕組みに関する研究 |
| 文系 | 国際関係研究科（D） | The US-China Semiconductor Frictions |
| 文系 | 人間科学研究科（D） | 高度外国人材への日本語学習支援策の検討-日本のバングラデシュIT 人材を事例として |
| 理系 | 理工学研究科（D） | Development of "Next Generation Concrete" made only from Waste Concrete and Plant Biomass Waste and Challenges for Construction Structural Materials |
| 理系 | 理工学研究科（D） | UAVのための受動着陸機構による着陸判定 |
| 理系 | 情報理工学研究科（D） | 情報技術活用による新生児蘇生講習の実施支援システムの開発 |

## コンテスト概要

本コンテストの受賞者を称え表彰式を開催しました。表彰式は、2023年11月16日（木）のライスボールセミナーにおいて執り行われました。受賞者による研究内容のプレゼンテーションを行ったところ、多くの参加者が集まり、院生の最先端の研究を興味深く聞かれており、活発な質疑応答がなされました。

（１）開催日時　2023年11月16日（木）12:20～12:50
（２）実施形態　オンライン開催
（３）式次第　①開式の辞、③受賞者発表・審査講評、④表彰、⑤大賞・優秀賞受賞者プレゼンテーション、⑥閉式の辞

## 13. 100人論文at立命館大学

### 概要

大学院生のための研究発表会として、また、大学院ウィークの一行事として位置付けて、2022年度初めて「100人論文at立命館大学」を開催しました。その目的は以下の2点です。
（1）大学院生が行っている研究を見聞きすることにより、研究のおもしろさや楽しさに触れる機会になるとともに、「研究」や「研究者」への興味・関心を高め、大学院（後期課程を含む）進学の動機付けにする。
（2）大学院生（後期課程を含む）にとって、①研究発表の機会、②発表スキルの向上、③異分野交流のきっかけ、④匿名による「本音」の意見交換により、多角的に研究を深めるきっかけ、にする。

### 実施状況

1）日 程 エントリー 10/2～10/20
発表期間 11/6～11/19

2）発表者
29名

3）形式
“note”（https://note.com/)上に専用コーナーを設置
大学院生が、特設オンラインサイトに匿名で掲載する。（通常は所属等も書かず、完全匿名であるが、大学院ウィークの一環ということから、所属研究科、前期・後期課程の別、回生は記載。 例 文学研究科D1）

4）内 容
・自分の研究テーマに関する1枚の写真と3つの問の答えを発表する。
[3つの問]
a.「私の研究はこんな感じです」（他分野でもわかるように説明）（300字）
b.「こんなコラボができたらうれしい」（目標や希望、困っていることなど）（120字）
c.「私、こんなことができます」（提供できる知やスキルなど）（120字）
・閲覧者は、質問や意見などをコメントとして匿名で書き込む。
・コンタクトを希望する場合は、初回は、事務局が間に入って、双方をつなぐ。
・全体の中から、閲覧者の投票（note上の「スキ」の数）によりベストインパクト賞・インパクト賞を決定する。（副賞としてAmazonギフト券を授与）

### 表彰

note上の掲載内容について、期間中2,300件のページビューがあり、300件以上の「スキ」を得ることができました。獲得投票数上位より、以下の3名に対して順位をつけて授与することにしました。

| | | |
|---|---|---|
| ベストインパクト賞 | 経営学研究科 | ダイキンの空調機器事業のグローバル展開と開発・生産体制 |
| インパクト賞 | 人間科学研究科 | 仲間入り方略に着目した同性集団の出現－保育園3歳児クラスのビジュアル・エスノグラフィー調査－ |
| インパクト賞 | 政策科学研究科 | 電気自動車から廃リチウムイオン電池を回収・再利用に関する研究 |
| インパクト賞 | 経済学研究科 | 『AIは少子高齢化による労働力人口を補うか？または AIが人間の労働する機会を奪うのか？』 |
| インパクト賞 | 社会学研究科 | 空襲は「今、ここ」という時間と空間とつながっている：空襲の記録の歴史社会学 |
| インパクト賞 | スポーツ健康科学研究科 | UCM解析による打撃動作の関節間協調の解明 |
| インパクト賞 | 経営学研究科 | 大企業における次世代のイノベーションの担い手は誰なのか？ |

## 14．ライスボールセミナー

ライスボールセミナーは、「若手研究者の力量形成」「異分野研究者間の交流」「研究活動および大学院に対する学部生の興味・関心向上」を目的として、お昼休みの時間帯に実施しています。聴講は無料で、参加者はおにぎり（ライスボール）を食べながら、気軽に研究発表を聴くことができます。

登壇する若手研究者は、自身の研究内容や研究生活、また大学院進学のきっかけ等も発表し、発表後は聴講者との活発な議論を行っています。

2023年度は5月の新型コロナウィルスの感染症区分5類移行があったものの、他キャンパスからのライスボールセミナーへの聴講のしやすさなども考慮され、2022年度に引き続き全キャンパスでオンライン開催となりました。
また、後半期には、「大学院ウィーク」との連携企画として、大学院生を発表者とし、大学院への興味・関心を高める取り組みを実施しました。

【図表14-1　衣笠キャンパス（全9回中１回）】

| 開催日 | 研究科 | 課程 | 氏名 | タイトル |
|---|---|---|---|---|
| 11月16日<br>リサーチプロポーザルコンテスト受賞者による発表 | 社会学研究科 | 博士後期 | 湯谷 菜王子 | 母子家庭支援をめぐる規模意識の研究：フェミニズム視点からの政治言説分析 |
| | 情報理工学研究科 | 博士後期 | 長谷川 翔一 | 生活支援ロボットの行動計画のための大規模言語モデルと場所概念モデルの活用 |

【図表14-2　びわこ・くさつキャンパス（全10回中10回）】

| 開催日 | 研究科 | 課程 | 氏名 | タイトル |
|---|---|---|---|---|
| 5/16 | 情報理工学研究科 | 博士後期 | 永瀬 亮太郎 | 音声が伝える感情を書き起こす音声感情認識の研究 |
| 5/23 | 情報理工学研究科 | 博士後期 | 長谷川 翔一 | サービスロボット導入のための記号的知識の転移学習と実世界人工知能技術統合 |
| 6/6 | 経済学研究科 | 博士前期 | 高木 冬太 | 太平洋諸島の廃棄物問題ーフィジー諸島を事例として |
| 6/20 | 理工学研究科 | 博士後期 | 増田 葉月 | 女性に着目したコミュニケーション活性化のための生体リズムモニタリングシステムの開発 |
| 6/27 | スポーツ健康科学研究科 | 博士後期 | 廣松 千愛 | 成人男性サッカー選手を対象にした試合前における糖質摂取量の個別化 |
| 10/10 | スポーツ健康科学研究科 | 博士後期 | 川瀬 広大 | 高齢者の歩行の課題とその課題を補う杖の動力学的作用の解明 |
| 10/24 | 理工学研究科 | 博士後期 | 福田 悠太 | 深層学習技術を用いた暗号回路に対するサイドチャネル攻撃に関する研究 |
| 10/31 | 情報理工学研究科 | 博士後期 | 吉田 航輝 | ウェアラブルデバイスで計測する脈波を意図的に制御する技術に関する研究　～脳波を操作する～ |
| 11/7 | 薬学研究科 | 博士課程 | 上南 静佳 | 医薬品の副作用が引き起こす消化管疾患に関する研究 |
| 11/14 | 生命科学研究科 | 博士前期 | 加藤 優太 | 糖尿病における膵β細胞インスリン分泌不全の分子メカニズム |

【図表14-3　大阪いばらきキャンパス（全9回中6回）】

| 開催日 | 研究科 | 課程 | 氏名 | タイトル |
|---|---|---|---|---|
| 6/16 | 人間科学研究科 | 博士後期 | 鈴木 萌々香 | 顔が歪んで見える？～横目で見たときの顔の不思議～ |
| 6/23 | 経営学研究科 | 博士後期 | 張 雪瑩 | 新しい価値創造のキーは変革を求めるものにある！～変革価値と変革志願者を知ろう～ |
| 6/30 | 人間科学研究科 | 博士後期 | 小山 多三代 | ちょっと前向きになれるかもしれない話：歴史哲学から得られる示唆をもとに |
| 7/7 | 人間科学研究科 | 博士後期 | LIU Cheng | Couple Therapy：なぜ好きだった人が嫌いになるのか |
| 10/27 | テクノロジー・マネジメント研究科 | 博士後期 | 馮 翰林 | 遠隔医療領域の国際研究動向：文献計量分析 2001-2022：-中国がグローバル中位置付けについてcovid19 前後研究変化と- |
| 11/17 | 人間科学研究科 | 博士後期 | 下條 志厳 | 間違った知識を含む実例による協同学習支援 |

## 15. AI自動翻訳システムによる支援

### 概要

大学院生が行う研究活動の高度化・グローバル化をさらに力強く促進するために、2023年度より、大学院の正規課程に在籍する全大学院生を対象に、高精度な外国語機械翻訳システムを2022年度秋学期の試験運用期間を経て、2023年度より本格導入しました。

大学院生の研究活動において、海外文献の引用や外国語による研究成果の発表などグローバルな展開を推進するうえで、1つの障壁となるのが「言語能力の壁」です。外国語運用能力の不足により、外国語文献を最初から調査対象に含めないケースやジャーナルに投稿する際の英語妙録の掲載があると躊躇するなど自然と研究活動の範囲に制約が生じる場合があることから、キャリアパス推進室ではオンライン外国語学習システム「ランゲージアカデミー（by goFLUENT）」の導入、学内のCLA講座の受講料全額補助、TOEIC公式受験料の全額補助など英語を中心に大学院生の外国語運用能力の向上に向けて様々な取り組みを行ってきました。

これらの取り組みに加え、更に大学院生の国際的な研究活動を後押しするために、高精度な外国語機械翻訳システムを導入することで、「言語能力の壁」を取り払い、国内外の研究成果に容易にアクセスできる研究環境の構築を支援することとしました。

### 導入システムについて

（１）サービス名
企業向けAI自動翻訳　MiraiTranslator®
（２）運営企業
株式会社みらい翻訳
（３）利用できる機能
テキスト翻訳・ファイル翻訳、辞書・翻訳メモリ、その他管理機能
（４）対応言語
日本語⇄英語、中国語（簡体/繁体）、韓国語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、ポルトガル語、ロシア語、イタリア語

英語⇄中国語（簡体/繁体）、韓国語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、ポルトガル語、ロシア語、イタリア語

### 利用実績

（１）年間利用者数（延べ）
1,548名

（２）翻訳回数（延べ）
51,687回

（３）上位の翻訳パターン
1位　英語→日本語
2位　英語→中国語（簡体字）
3位　日本語→英語

16．オンライン英語論文個別指導による支援

## 概要

大学院生が英語の論文作成をする上で、英語文法や語彙における弱点を克服し、以後の論文執筆を円滑に行えるようになることを目的とし、オンラインにて英語ネイティブによる添削指導を実施しました。

## 支援内容

（１）支援方法
zoomを活用したオンラインでの個別指導により、論文やアブスト、プレゼン資料等について、文法や語彙の弱点を指摘また適した表現の選択など、より質の高い論文完成に向けて指導を行いました。
（２）募集広報
大学院キャリアパス支援室のウェブサイト・manaba+R・メルマガによる募集広報を行い、プログラム終了日までの決められた期間において、WEB受付を行いました。
（３）日程
1コマの設定時間を45分とし、1コマ目と2コマ目の間には準備時間として10分間設けました。

| 時間帯 | パターン | |
|---|---|---|
| 夕方－夜間 | ① | 17：00～17：45 |
| | ① | 17：55～18：40 |
| | ① | 20：00～20：45 |
| | ① | 20：55～21：40 |

なお、年間で60コマ（春学期30コマ、秋学期30コマ）分を設定しました。
（４）支援業者
大学英語教育プログラムの展開実績がある株式会社SEICOに支援いただいています。

## 利用実績

（１）2023年度春学期
＜研究科別受講者状況（人数）＞　赤字下線は日本人学生の数

| | 研究科 | M1 | M2 | D1 | D2 | D4 | D5 | D6 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 経済 | (1) | 1 (1) | | | | | | 3 |
| 2 | 社会 | | | 1 | | | | | 1 |
| 3 | 理工 | | (1) | 2 | 1 | 1 | | | 5 |
| 4 | 国関 | 1 | | | | | 1 | | 2 |
| 5 | 政策 | | 1 | | | | | | 1 |
| 6 | スポ研 | | | | | | | 1 | 1 |
| 7 | 人間科学 | | | | | | 1 | | 1 |
| | 合計 | 2 | 4 | 3 | 1 | 1 | 2 | 1 | 14 |

※上記受講者14名中、複数回利用者 計5名
（ ）内黒字は、当日欠席者

（２）2023年度秋学期
＜研究科別受講者状況（人数）＞　赤字下線は日本人学生の数

| | 研究科 | M1 | M2 | D1 | D2 | D4 | D5 | D6 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 経済 | 3 | | | | | | | 3 |
| 2 | 経営 | | | 1 | | 1 | | | 2 |
| 3 | 文 | | 1 | | | | | | 1 |
| 4 | 理工 | 1 | 2 | | 2(1) | | | | 5 |
| 5 | 国関 | 3(1) | 1 | | | | | 1 | 5 |
| 6 | 政策 | | | | | | | 1 | 1 |
| 7 | テクマネ | | | 1 | | | | | 1 |
| 8 | スポ研 | | | | | | | 1 | 1 |
| | 合計 | 7 | 4 | 2 | 2 | 1 | 0 | 3 | 19 |

※上記受講者14名中、複数回利用者 計5名
（ ）内黒字は、当日欠席者

## 17. 研究倫理セミナー

大学院生が学問的良心に基づき自由に研究活動を行うためには、研究を進めるにあたって知っておかなければならない行動規範、成果の発表方法などの研究倫理を心得ておく必要があります。大学院生が意図しない部分で倫理的な問題を起こさないためにも、研究倫理の基礎知識、研究倫理を学ぶ必要性・意義などを学び、研究倫理は大学院生が主体的に考えるべき問題であるということを認識することは非常に重要なことです。
これまで本学では、指導教員による研究倫理指導だけではなく、正課科目、課外セミナーによる研究倫理教育の実施や、新入生オリエンテーション等においても研究不正（剽窃、盗作など）に関わる注意喚起等も行ってきました。この間の取組みも踏まえつつ、本学では2016年度より全大学院生を対象とした新たな研究倫理教育を実施しています。

### 研究倫理プレセミナー

研究倫理プレセミナーは、大学院新入生オリエンテーションにおいて研究不正（剽窃、盗作など）に関わる注意喚起等を行っています。新型コロナ感染症拡大以降、従来の内容を撮影した動画を配信し、manaba等にて通知しました。
セミナーでは、研究とは何か、研究の魅力を知るとともに、研究活動を進めるためには研究倫理を学ぶ必要があること、研究倫理は大学院生が主体的に考えるべきことを認識させるために、日本学術振興会編集の冊子『科学の健全な発展のために』（以下、「グリーンブック」）を配布し、内容を紹介しました。
※【グリーンブック】本書は、日本学術振興会が編集委員会を設け、日本学術会議の協力、科学技術振興機構や各大学に所属する有識者の協力、文部科学省のアドバイスなども踏まえ編集されたものです。また、本書は人文・社会科学から自然科学までのすべての分野の研究に関わる者が、どのようにして科学研究を進め、科学者コミュニティや社会に対して成果を発信していくのか、エッセンスになると思われる事項を整理しまとめたものです。

### グリーンブックの熟読

グリーンブックは基本的な研究倫理に関することが網羅的に記載されており、大学院生が最初に研究倫理を学ぶ教材としては非常に適しています。「研究倫理プレセミナー」開催時に新入生全員にグリーンブックを配布し、欠席者分は研究科事務室より配布しました。オリエンテーションのオンライン化が進み、2022年度からデータ配布に変更します。
要点が一冊の本にまとめられていて分かりやすい、研究を進めるうえで活用できるとの意見が多数ありました。一部の参加者からは既に知っている研究倫理に関する内容であるとの意見もありましたが、改めて復習する機会となったとの意見もありました。

### 研究倫理eラーニング

グリーンブックでは掲載しきれなかった具体的な事例と解説が整理してまとめられており、研究倫理共通セミナーを受講前に、eラーニングを修了することを義務付けています。
本eラーニングは、日本学術振興会が、研究機関の実施する研究倫理教育のひとつとして導入することを想定して、2016 年4 月15 日よりサービス提供を開始しました。人文学・社会科学から自然科学までのすべての分野の研究に関わる者が、どのようにして科学研究を進め、科学者コミュニティや社会に対して成果を発信していくのかといったことについて、エッセンスになると思われる事柄を整理しまとめたものです。研究を進めるにあたって知っておかなければならないことや、倫理網領や行動規範、成果の発表方法、研究費の適切な使用など、科学者としての心得が示されています。

### 研究倫理共通セミナー

2020年度よりVOD学習として日本語版と英語版の動画を配信しています。過年度の受講者アンケート（自由記述）では、「同じチームで研究した内容であっても、講義資料を示す際には、引用をしっかり明記することが印象に残りました。非常にイメージしやすく、身近に起こり得る事例だと感じました。自己のプレゼン発表でも、常に注意したい点だと改めて感じました。」「研究倫理違反ということが、悪意がなくとも不注意で起こりやすい場面がたくさんある、ということに気づけた。」などの意見が寄せられました。本セミナーは、研究倫理というものが自身の身近にある問題として改めて認識する機会となり、行動の仕方や問題意識の持ち方など倫理姿勢を学ぶとても意義深いものになったと考えられます。

## 18. 男女共同参画推進リサーチライフサポート室における取り組み

立命館大学は、2016年度に選定された文部科学省・科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 特色型」を後押しに、女性研究者支援に関する様々な施策を図って参りました。その取り組みと成果検証を通して、自然科学系無期雇用教員の女性比率が向上されない課題を共有しました。2020年度には文部科学省・科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 先端型」に選定され、女性研究者の裾野拡大、採用、育成、上位職登用までの一連のキャリア支援を視野に入れた、女性研究者のキャリアパスを「つなぐ」プログラムを構築することで、女性研究者のキャリアアップを重点的に図っております。
本事業の取り組みのひとつである「女性研究者の裾野拡大」では、女子中高生や学部生が将来のキャリアを明確に描くことができるよう、ロールモデルとなる女子大学院生や女性研究者が身近にいる環境を作り出し、研究者の魅力を情報発信するための取り組みを進めています。
2023年度には、下記の通り、大学院生や大学院を目指す学部生を対象とした取り組みを行いました。

（1）「女性研究者のこれまで／これから」
高校生・学部生が大学院進学を具体的にイメージすることができるよう、本学女子大学院生が研究の道に進んだ理由やどのような研究をしているのか、キャンパスライフ等についてご紹介しています。2023年度の大学院進学広報イベント「大学院ウィーク」とのコラボレーション企画として、本イベントの特別Webサイトでも動画を掲載しました。

当室ウェブサイト
http://www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/video/

（2）研究者ロールモデル集「研究日和」の発行およびウェブサイト掲載
「研究日和」は、多彩なバックグラウンドを持つ研究者のライフストーリーを通して、研究の面白さを伝えるとともに、研究者の裾野拡大と学生への研究意欲の向上を目的としています。本年度は、Vol.8を発行し、3名の研究者のインタビューを掲載しました。

当室ウェブサイト
http://www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/video/

（3）「世界のキャンパスから」の冊子発行およびウェブサイト掲載

学外研究制度や女性研究者海外渡航支援制度を利用した研究者の協力を得て、研究情報および諸外国におけるワークライフバランスや研究環境整備に関する情報を収集し、その内容を紹介しています。これから海外で共同研究や学外研究を予定している研究者が、渡航先で円滑な研究活動ができること、また、研究者を目指す高校生、学部生、大学院生が国際共同研究を具体的にイメージできることを目的としています。本年度は、ウェブサイトに1名を追加しました。、2024年度に発行予定の冊子「世界のキャンパスから vol.2」では、計4名の研究者のインタビューを掲載予定です。

当室ウェブサイト
https://www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/worldcampus/

## 19．立命館大学若手研究者学術・キャリア情報検索システム（Ri-SEARCH）

### （1）本システム導入の背景・目的

本システムは、2011年度に本学の博士課程後期課程に在籍する大学院生の研究活動・研究業績の記録と希望者の研究業績の公開を目的として導入し、2021年度には対象者を全大学院生に拡大し運用しています。

◆目的
①全大学院学生個人のキャリアパス形成の推進に資する
②通常得られにくい大学院生の研究業績情報を一般公開する
③大学として大学院生支援のための政策立案の基礎となるデータ収集を進める

### （2）基本仕様

◆構成
本システムは、利用対象となる大学院生（正規生）が、自身の研究業績や希望するキャリアについて登録するWEBと、登録のうえ、公開設定された情報をインターネットユーザーが閲覧できるWEBの2点により成り立っています。
研究者情報の登録WEB: <https://gyoseki-web.ritsumei.ac.jp/ritgsap/P300>
研究者情報の閲覧WEB: <https://gyoseki.ritsumei.ac.jp/ritgshp/KgApp/>

◆利用権限
全大学院生（正規生）、教員（一部非常勤含む）

◆機能の特徴
大学院生の研究業績情報を蓄積し、公開する以外に次の機能を有しています。
①各研究科および大学院キャリアパス推進室で把握しておくべき研究業績データをExcelなどの集計ソフトに対応した形式でエクスポートする機能。
②国立研究開発法人科学技術振興機構が運営する研究者情報データベース「researchmap」への研究業績データ連携機能。
③英語基準の大学院生や海外からの一般アクセスへの対応に配慮した項目の日英両言語併記。
④「学生学会奨学金」の電子申請機能。その他奨学金申請書類の自動作成機能。

## （３）参考：2023年度の研究業績データ（課程、研究科別一覧）

【図表19-1　2023年度の研究業績データ（課程、研究科別一覧）】

※1:専門職学位課程は除く
※2:「Ri-SEARCH在籍者数」は基準日時点のRi-SEARCHシステムに登録されている大学院生数。

| 研究科名 | | Ri-SEARCH | 論文 | | 著書 | | 国内学会発表 | | 国際学会発表 | | シンポジウム発表 | | 学術雑誌等/解説・総説 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【後期課程】 | 文・理系 | 在籍者数 | 登録件数 | 登録者数 | 登録件数 | 登録者数 | 登録件数 | 登録者数 | 登録件数 | 登録者数 | 登録件数 | 登録者数 | 登録件数 | 登録者数 |
| 法学研究科 | 文 | 9 | 8 | 3 | 0 | 0 | 5 | 3 | 0 | 0 | 10 | 3 | 0 | 0 |
| 経済学研究科 | 文 | 29 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 6 | 23 | 9 | 1 | 1 | 5 | 3 |
| 経営学研究科 | 文 | 32 | 19 | 8 | 1 | 1 | 14 | 9 | 8 | 7 | 1 | 1 | 8 | 6 |
| 社会学研究科 | 文 | 48 | 12 | 10 | 3 | 3 | 25 | 17 | 4 | 4 | 4 | 3 | 11 | 10 |
| 国際関係研究科 | 文 | 54 | 3 | 3 | 0 | 0 | 8 | 8 | 19 | 13 | 11 | 8 | 8 | 4 |
| 政策科学研究科 | 文 | 27 | 1 | 1 | 0 | 0 | 8 | 5 | 3 | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 |
| 文学研究科 | 文 | 88 | 42 | 19 | 2 | 2 | 40 | 24 | 25 | 20 | 43 | 23 | 11 | 11 |
| 先端総合学術研究科 | 文 | 199 | 28 | 21 | 9 | 7 | 66 | 43 | 25 | 18 | 42 | 21 | 31 | 25 |
| テクノロジー・マネジメント研究科 | 文 | 28 | 1 | 1 | 0 | 0 | 9 | 5 | 16 | 10 | 2 | 2 | 9 | 5 |
| スポーツ健康科学研究科 | 文 | 55 | 1 | 1 | 0 | 0 | 35 | 16 | 38 | 22 | 6 | 5 | 23 | 16 |
| 人間科学研究科 | 文 | 109 | 6 | 6 | 6 | 4 | 72 | 40 | 30 | 18 | 18 | 11 | 15 | 9 |
| 食マネジメント研究科 | 文 | 11 | 0 | 0 | 2 | 2 | 10 | 6 | 4 | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 理工学研究科 | 理 | 89 | 6 | 5 | 0 | 0 | 51 | 28 | 53 | 33 | 41 | 17 | 26 | 20 |
| 情報理工学研究科 | 理 | 76 | 13 | 5 | 0 | 0 | 25 | 14 | 65 | 36 | 24 | 15 | 20 | 14 |
| 生命科学研究科 | 理 | 37 | 0 | 0 | 0 | 0 | 46 | 16 | 21 | 12 | 19 | 9 | 13 | 7 |
| 薬学研究科 | 理 | 28 | 0 | 0 | 0 | 0 | 32 | 17 | 17 | 14 | 7 | 5 | 11 | 9 |
| 総数 | | 919 | 140 | 83 | 23 | 19 | 453 | 257 | 351 | 222 | 231 | 126 | 193 | 141 |

| 研究科名 | | Ri-SEARCH | 論文 | | 著書 | | 国内学会発表 | | 国際学会発表 | | シンポジウム発表 | | 学術雑誌等/解説・総説 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【前期課程】 | 文・理系 | 在籍者数 | 登録件数 | 登録者数 | 登録件数 | 登録者数 | 登録件数 | 登録者数 | 登録件数 | 登録者数 | 登録件数 | 登録者数 | 登録件数 | 登録者数 |
| 法学研究科 | 文 | 56 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 経済学研究科 | 文 | 83 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 | 8 | 8 | 4 | 2 | 0 | 0 |
| 経営学研究科 | 文 | 65 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 社会学研究科 | 文 | 63 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 国際関係研究科 | 文 | 148 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 0 | 0 |
| 政策科学研究科 | 文 | 73 | 2 | 2 | 0 | 0 | 5 | 5 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 |
| 文学研究科 | 文 | 106 | 2 | 2 | 0 | 0 | 11 | 11 | 21 | 21 | 17 | 12 | 0 | 0 |
| 言語教育情報研究科 | 文 | 74 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| テクノロジー・マネジメント研究科 | 文 | 127 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| スポーツ健康科学研究科 | 文 | 53 | 0 | 0 | 0 | 0 | 16 | 10 | 6 | 6 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 映像研究科 | 文 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 | 3 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 人間科学研究科 | 文 | 124 | 0 | 0 | 0 | 0 | 22 | 18 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 |
| 食マネジメント研究科 | 文 | 37 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 理工学研究科 | 理 | 845 | 0 | 0 | 0 | 0 | 201 | 176 | 142 | 119 | 143 | 116 | 10 | 7 |
| 情報理工学研究科 | 理 | 378 | 7 | 3 | 0 | 0 | 70 | 59 | 67 | 56 | 104 | 81 | 1 | 1 |
| 生命科学研究科 | 理 | 311 | 4 | 3 | 0 | 0 | 234 | 127 | 91 | 46 | 78 | 60 | 24 | 21 |
| 薬学研究科 | 理 | 55 | 0 | 0 | 0 | 0 | 32 | 24 | 11 | 10 | 6 | 6 | 0 | 0 |
| 総数 | | 2962 | 15 | 10 | 0 | 0 | 614 | 452 | 361 | 281 | 361 | 285 | 36 | 30 |

20. 学部生に向けた取り組み

## 「大学院ウィーク」での企画展開

学部生の大学院進学に関する早期の意識の醸成を図るための企画として教学部が主管となり「大学院ウィーク」を秋に実施しています。ここでは各部・課にて関連企画が展開され、2023年度は以下の企画展開となりました。

◆期間
2023年11月6日(月)～11月19日(日)
※企画によって、若干の期間外の場合もあり。

◆主な企画
各研究科や研究拠点による公開授業、公開セミナー、オフィスアワー
現役院生・OB・OG との交流会、座談会、個別相談会
大学院進学説明会（各研究科による説明会）
若手研究者による研究発表（ライスボールセミナー）
図書館での教員お薦め本展示、大学院修了生刊行図書の展示
100 人論文
生協食堂でのコラボメニュー提供

◆参加者数
全体で89の企画が実施され、集計可能な企画だけで2,200名の参加がありました。

# 21．日本学術振興会「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」による支援

## 制度の概要

（1） 経緯
本学は、2023年7月24日付で日本学術振興会（以下、「JSPS」）より「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」の導入機関として登録されることとなりました。
これにより、本学を受入研究機関とするJSPS特別研究員（PD,RPD,CPD）の方は、基本的に、本学にて直接雇用されることとなりました。

JSPS「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」WEBサイト
https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd-koyou/

（2） 本学が雇用する日本学術振興会特別研究員PD等の育成方針
本学では、研究力向上のための研究高度化中期計画において、若手研究者をはじめとする研究者のキャリアステージに応じた支援と基盤的な研究支援により、「一人ひとりの研究力量を高める大学」を目標とする大学像の一つに掲げています。特に若手研究者の研究力向上と多様なキャリア形成に向けた取り組みに力を入れています。

本学では、大学独自の支援として以下4つの取り組みを実施いたします。

①グローバルに競争力のある研究者の育成
グローバルに活躍できる研究者の育成に向けて、海外研鑽の機会や海外機関との共同研究の機会を提供します。また、国際学会等での海外渡航費の支援を行う「研究者海外渡航支援制度」や海外大学との国際共同研究を支援する「国際共同研究推進プログラム」の提供を予定しています。

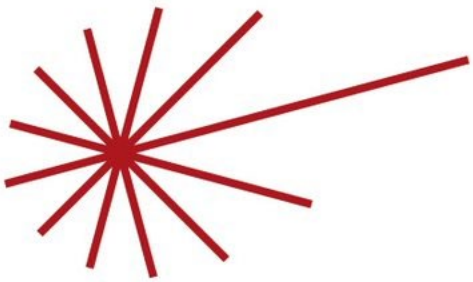
②自ら研究費を獲得し、研究を推進できる研究者の育成
研究費の獲得に向けた「科研費獲得支援セミナー」や「科研費研究計画書ブラッシュアップ制度」の実施、論文投稿を支援する「外国語論文投稿時の投稿・校閲費支援制度」や「ハイ・インパクトジャーナル投稿支援制度」などを提供する予定です。

③理論と実践力を兼ね備えた研究者の育成
大学教員として身に着けておくべき基本的な教育力量を養い、若手研究者のキャリアパス構築に役立ててもらうため、立命館大学教育開発推進機構が実施する新任教員向けFDプログラムを活用した研修の機会を提供します。

④女性研究者に係る育成方針
ダイバーシティ＆インクルージョン推進の観点から、女性研究者を対象とした支援も行います。女性研究者のキャリアパス構築や研究開始時の立ち上げ期の支援、ライフイベントにかかわる研究支援など女性研究者が安心して活躍できる支援を進めます。

以上、本学は、これからも、若手研究者がいきいきと挑戦できる環境を整え、「次世代研究大学」の実現に向けたさらなる取り組みを進めてまいります。

関連WEBサイト
<https://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/fellow/doctor/article.html/?id=61>



RARA

RITSUMEIKAN ADVANCED
RESEARCH ACADEMY